

平成6年7月1日 NO.1  
 茨城県農業総合センター  
 土浦農業改良普及所  
 土浦農業改良普及事業推進協議会  
 土浦市真鍋5-17-26  
 電話 0298(22)8511  
 内線 431・432・433

## 玉里村のレンコン 銘柄産地に指定される



玉里村のレンコンは、村農業の柱であり、玉川地区を中心に作付けされている。作付け面積一四〇ha、出荷量は一、二〇〇t、販売金額四億五千万円の産地であり、平成六年度に県銘柄産地に指定を受けた。

これまでの主な活動は、周年出荷体制の確立のため、大型ハウスの導入によるハウスレンコン栽培を県下に先駆け実施し、夏の発砲スチロールによる氷詰め出荷に取り組むなど、産地の強化、商品性の向上等に努めてきた。

今年度は、銘柄産地指定に向け、産地強化の集大成として四月二八日に「茨城県一のレンコン産地をめざして」をテーマに玉里村レンコン生産者大会を開催した。

当日は、一、二〇名の出席のもと銘柄産地指定へ向けての推進活動・生産部会活動・技術向上への取り組みの経過報告を行うとともに、全農の上滝裕紀氏を講師に招き「玉里村レンコン産地に期待する事と市場動向について」を演題として、講演会を開催した。

最後に生産部会より、産地目標と産地強化作戦の発表を行い、盛況の内に幕を閉じた。

## 平成六年度婦人農業士の仲間

優れた農業経営と豊かな農家生活を築くうえでの婦人の役割は大きいものがある。茨城県は婦人農業士制度を設け、農業経営と農家生活の向上のために意欲的に取り組んでいる婦人農業者を、地域のリーダーとして平成二年度から認定している。今年度当普及所管内で三名の方が認定されたので紹介したい。



大関美津恵さん  
土浦市今泉町

農業経営とくらしについて

施設園芸(花卉)十畑作(枝物)十水稲。花卉はブバルディアとアルストロメリアを、枝物はユキヤナギ等を栽培している。

今後は健康を考えて、労力の問題や休日等について改善をはかりたい。そして、農業の良きパートナーとして、活躍したい。



田所國子さん  
出島村大字牛渡

農業経営とくらしについて

肥育牛十水稲十芝

肥育牛を中心にした現在の経営を継続していく方針。特に糞尿処理施設の設置により、副産物を堆肥化し、有効利用に向けて行動したい。生活面では、定期的な休日をとれるゆとりある経営をめざし、地域においては、新婦人農大OBとして経営改善や計画的な家庭生活の運営等について組織活動をしていく。又畜産農家として糞尿処理について研究していくことが課題だそうだ。



植由美子さん  
八郷町小見

農業経営とくらしについて

椎茸十水稲十麦

労働力の平均化と所得の増大をはかるため、椎茸の周年栽培をめざしたい。生活面では今後の生活の方向や地域の環境を考えられるゆとりを持ち、心豊かに暮らしたい。グループ活動も皆がそれぞれ忙しい時だからこそ「行動できる」グループ活動をした。

三人は将来の農業に夢ふくらませ、

七月十九日から十二日間、ヨーロッパ研修に旅立つ。多くを感じそれが地域へ、明日へつながることを期待したい。

### 普及所の新体制

県の組織条例が改正され、四月一日から土浦農業改良普及所となりました。

新しい普及所の活動体制と業務内容は、次のようになりました。

#### 地域普及課

地域農業の振興計画の援助と青少年クラブ、農業経営士、青年・婦人農業士の活動援助及び農業、農村の環境改善等を行う。

#### 経営生活課

法人化等大規模、企業的経営農家及び集団等の経営管理指導の援助と農家生活(農業労働、農畜産物の利用、農生活等の指導等)を行う。

#### 農畜産課

農産(稲、麦、大豆)等の栽培技術指導、並びに生産振興と畜産(牛、豚)飼養管理指導並びに生産振興を行う。

#### 園芸課

野菜、果樹、花卉等の栽培技術の指導と生産振興を行う。

#### 新しい普及所のスタッフ

所長 高野 茂 作物

技師	矢口 重雄	畜産
次長	広原 通治	
主査	吉沢 甚一	花き
<b>地域普及課</b>		
課長	広原 通治	そさい
係長	菅野 俊子	庶務
主任	草野千恵子	庶務
副主任	高橋 孝一	そさい
専門員	菊池 三男	作物
専門員	海方美千子	農村環境
技師	諸岡 有子	
技師	小川 孝之	
<b>経営生活課</b>		
課長	長谷川哲朗	農業経営
専門員	橋本美津子	農業経営
専門員	栗原 豊江	農業労働
主任	滑川 裕之	
技師	宮城海代子	農家労働
<b>農畜産課</b>		
課長	堀田 藤重	作物
専門員	渡辺 和彦	作物
技師	本谷 直	畜産
技師	三田村 剛	作物
<b>園芸課</b>		
課長	原田 潔巳	そさい
専門員	大地 幸男	そさい
主任	大塚 毅	果樹
主任	丹治 功	花き
主任	須藤 一成	農業経営
技師	豊田 佳央	果樹
技師	皆川 剛	花き

# 稲農(7月号)

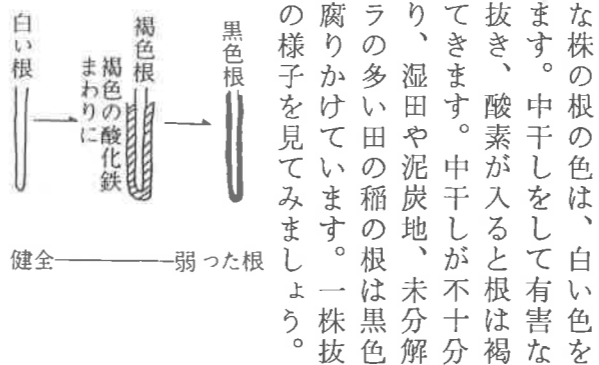
## 水稻

### 《適期追肥で安定多収》

#### 【中干しを実施しましたか】

七月に入ると稲は穂を作り始めます。しかし、穂が出来ても根が最後まで活躍してくれなくては安定多収は図られません。

六月の中干しが終わって、根の健全化、活性は図られたでしょうか。小さな株を抜いて根の色を確認してみましょう。



【穂の発育を確認し、適期追肥を】  
穂は出穂の約二五日前頃から目

に見えるほどに出来始めます。

コシヒカリですと、平年では出穂期は八月五日頃ですから、穂が作られ始めるのは七月三〜四日頃となり、七月十日頃から目に見えるようになってきます。そして、この時期は下位節間(五節、四節)が伸びる時期でもあり、早めに追肥すると節が伸び、倒伏させることとなります。

コシヒカリを倒さず栽培するには、出穂前一五〜二〇日頃、つまり、七月十五〜二〇日頃が追肥の適期となります。

しかし、年によって、天候によってやや早まったり、遅れたりしますので、株の中一番太い茎を三〜四本むいてみて、幼穂が十〜二〇mmになった時が追肥の適期です。穂の発育を確認し、適期に追肥しましょう。

## 梨



昨年度の低温日照不足により腋花芽着生が極めて悪く、現在着果している果実は短果枝主体となっている。そのため側枝は全体的にやや数が多く、古くなっており切り戻しの弱い状況となっている。その結果として徒長枝は主枝、亜主枝の背面だけでなく側枝の基部

付近にも多くみられる。これら無駄な部分の徒長枝の乱立は、樹冠内の日照不足や養分バランスを崩すことで、花芽着生不良や果実品質低下を招く。その対策として、剪定から新梢伸長時期にかけての芽かき作業、6月下旬からの誘引作業の実施が大切である。これら作業により果実糖度向上や、肥大促進へとつなげていくことができる。またそれらの作業により充実した花芽のある側枝を育成し、剪定時期に側枝の切り戻しを強くすることで、側枝先端部新梢の伸びを良くし、揃った大玉果生産をはかることが特に重要である。

◆今後収穫までの作業  
・新梢、予備枝誘引  
・不良果、小玉果の摘果  
・黒星病、ダニ、その他の防除  
◆収穫時の留意点  
・収穫は適熟出荷(特に幸水)に心掛け、運搬車や収穫台車利用により労力軽減をはかる。

## レンコン



追肥は七月中旬までとしその後、は場に入るとは地下茎を傷め、収量を低下させるので注意する。漏水を防止するために水口を止め、浅水の状態ですべてに施す。

## 町から村から

平成五年度茨城県青年農業士として次の五名の方々が認定されましたので紹介致します。

なお旧石岡普及所においては平成五年度に紹介してあります。

### 一、大関 正



土浦市今泉 三四才 花卉

花卉の専業経営として、アルストロメリアの周年栽培出荷を行う。

### 二、栗山芳之



土浦市今泉 三四才 花卉

花卉の専業経営として、転作水田の高度利用や年間の労力配分を活用。

### 三、羽成 誠



出島村深谷 三〇才 普通作

普通作(水稻、かんしょ等)経営の中で、低コストや先端技術を利用。

### 四、飯田 勝



出島村坂 三四才 酪農

高泌乳・低コスト生産に向けて、優良粗飼料の安定生産に取り組む。

### 五、佐藤 恭一



新治村上坂田 三五才 花卉(鉢物)

花卉(シクラメン・ペコニア)を中心として、果樹(梨)との複合経営である。

### 玉里村

玉川農協では、昨年どのような養殖について、韓国へ研修を実施したが、本年からレンコンハウスを利用して、どのような養殖に取り組むこととなった。現在稚魚を養殖中。

### 新治村

観光農業が盛んになり、小野地区に小野小町の里の振興の一環として、水車が完成した。五月のイベントでは、大きな反響を呼んだ。

### 出島村

六月一日、JA土浦、出島蓮根部会では、平成五年度の蓮根販売反省会議を開催した。

昨年度は異常気象の影響で、出荷数量は前年の六二%であったが、販売金額は大幅に伸びて、霞ヶ浦蓮根団地としても、二三年間で最高の販売金額であった。

ただ、昨年暮れ頃から、中国産レンコンが急増し、東京市場は国産の1/3程度の単価で入荷してきた。

また、肥料が葉に付着すると葉やけする場合もあるので注意する。芽まわしは、他のほ場に伸び出さないように、地下茎の先端を内側にむける。

二〜四日おきに、七月下旬〜八月上旬まで実施する。異品種の混入を防ぐと同時に、畦畔の損傷等による水漏れも防ぐ。

水管理は、生育中期からは浅水(五〜六cm)に保つ。

水がきれいだとレンコンの生育が悪くなるので、水の減りぐあいをみて補給してやる。

かけ流しは温度を下げるのでよくない。

がんばっています



代表者 岡野さたさん

## 石岡ミニふれあい市

石岡市大砂の県道八郷・石岡線沿に『石岡ミニふれあい市』という無人販売所がある。店が開いているのは、八〜十一月の梨の時期。そこには、けっして顔立ちの良い品物が並

### 農業改戸、資金の利用を

農業改良資金は、農業経営や生活を改善しようとする農業者、これから農業経営を始めようとする若者のための「無利子」の資金で、次の種類があります。

一、生産方式改善資金  
省力化や品質の向上のために、新しい技術を取り入れたり、生産の方法を改善しようとして、機械や施設を導入するとき。

二、青年農業者等育成確保資金  
これから農業経営を始めようとして、研修や教育を受けるときや、両親から独立して農業経営を始めするために必要な機械、施設を導入する場合。



んでいるわけではなく、ちょっとへこんだ梨や、泥のままの野菜が、うまく配置に並んでいる。毎朝、もぎたての梨と、野菜を持ってきているのは、大砂の梨農家を中心としたふれあい市のメンバー12名(代表岡野さた)。

「私達の作った梨、ちょっと位見てもくれば悪くたっておいしいんだから」「本当の野菜のおいしさを知ってよ」と直接消費者に呼びかけたくて直売を始めた。建物は、御主人達の手づ

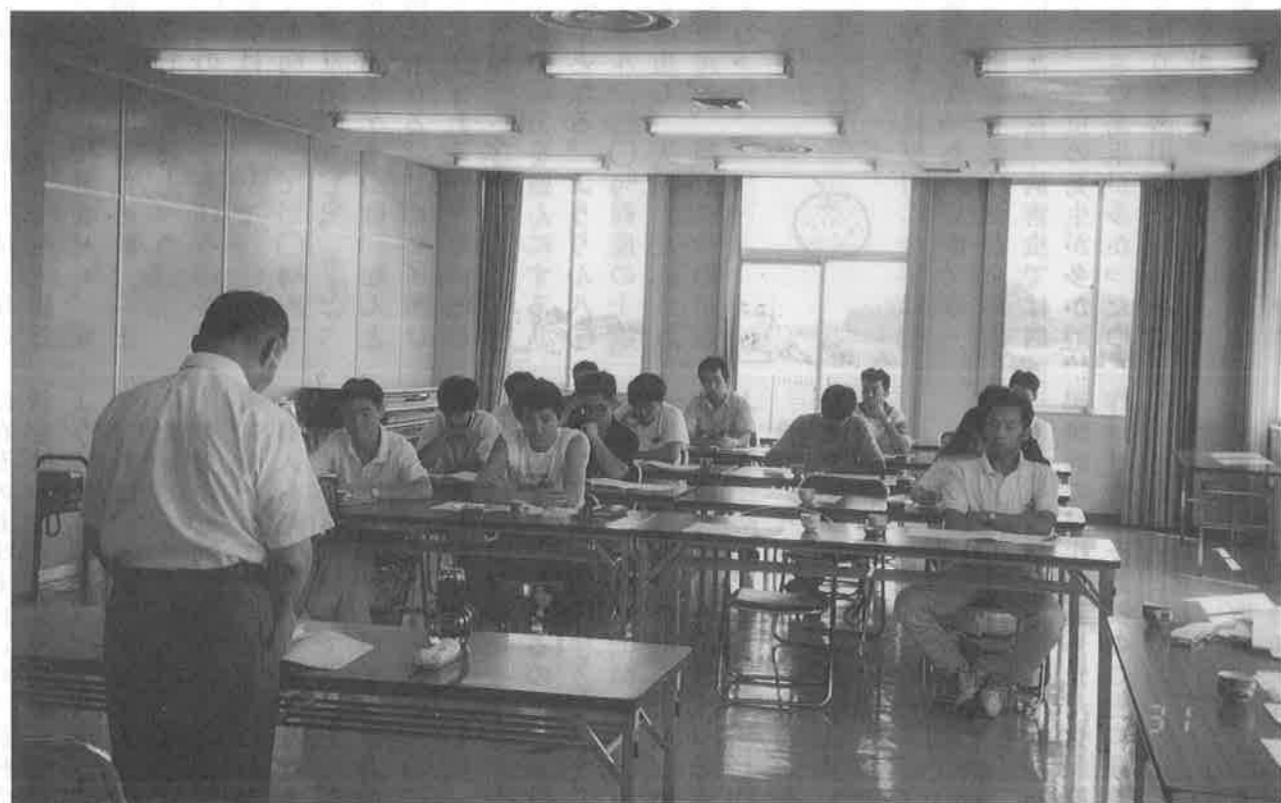
くり。みんなの協力を得て出来たミニふれあい市である。農家のお母ちゃん作った旬の果物・野菜を食べてほしいと張り切っている。

今年も、もうすぐ梨の季節がやって来る。ミニふれあい市の看板が道路沿に出される日も間近である。一年間丹精込めて作った梨を一人でも多くの人に食べてほしい。今年もお母ちゃんの「元氣」は毎日畑から梨園から運ばれるだろう。



平成6年12月15日 NO 2  
 土浦地域農業改良普及センター  
 土浦農業改良普及事業推進協議会  
 土浦市真鍋5-17-26  
 電話 0298(22)8511  
 内線 431・432・433

## あすの農業技術を学ぶ 農業学園



土浦地域農業改良普及センターでは後継者に技術修得と農業への意欲向上、後継者同士のコミュニケーションを図る目的で、八月三十一日同センターにおいて農業学園をスタートした。

開講式では小松崎前玉川農協組合長の講演が行われ、受講生は熱心に聞き取っていた。また講演後有機農法についての質問がでるなど、若世代の関心がどのようなのか垣間みられた。

これまで「学園生経営視察」、「制度資金の活用」のふたつの講座が行われたが学園生の出席率も七〇%と高く、活気のある講義が行われている。また学園生によるボウリング大会など後継者同士の交流も進んでいる。今後、「土壌肥料講話」、「先進地視察研修」、「パソコン研修」、「交流会」の講座を予定している。

講座メンバーは管内後継者一九人ですべて二〇代と若く、新規就農者も五人含まれている。農業に対して意欲的であり将来の地域農業の担い手となりうる存在である。

普及センターでは次年度の受講生を受付けていますので興味ある若い後継者はぜひ参加して下さい。

### 農業後継者相談員の紹介

平成六年度茨城県農業後継者相談員として、当土浦普及センター管内から二名の方が認定されましたので紹介致します。

この制度は、次代の農業を担う若い農業後継者の身近な相談に応じますので、気軽に相談下さい。

なお、相談にあたっては、事前に電話等で都合を確認し、深夜はできないだけして下さい。



藤崎 行雄相談員 桜井 好春相談員  
 千代田町上佐谷1529 出島村実倉2780-22  
 電話 0299-59-2731 電話 0289-97-1631

### 第一回土浦農業青年スポーツ交歓会開催される



一月一日、千代田町菅グラウンドにおいて普及センター管内の農業後継者等、約二〇名が集り、平成六年度土浦農業青年スポーツ交歓会が開催された。後継者クラブ、梨青年部、れんこん研究会等一〇グループおよび関係機関が八チーム編成となり、ソフトボールでお互いを競い合った。その結果は次のとおりである。

優勝 土浦れんこん研究会  
 準優勝 出島村酪農青年同志会

これは、土浦普及センター管内の後継者関係の第一回目のイベントとなり、早くも次年度の催しが期待されている。今後も後継者同士の交流が深まりそうである。

### 好評な農村女性大学



簿記の講習会

今、「女性の時代」、「女性が社会を変える」などと言われています。農業、農村においても、農業従事者の六割を女性が占めるようになり、農業生産や、家庭生活はもとより、

### 農業改良普及所の名称と組織の一部が変わりました

今年四月一日からの統廃合により、普及職員が今まで以上に、現地で専門的活動を展開できる体制で取り組んで参りました。この普及活動は「農業改良助長法」の法律に基づいて進められていますが、その法律が一〇月一五日をもって改正になり、次のように変わりました。

一、名称の変更  
 土浦農業改良普及所が土浦地域農業改良普及センターに

二、組織の統廃合  
 畜産指導所の職員及び業務が農

地域社会の中でも、女性が、活性化の重要な役割を担いつつあります。女性への期待が高まる中、「農業」と「暮らし」について、学び・話し合い、相互に向上する場として、農村女性大学を実施している。

農村女性大学は、年間一〇回の講座を設け、知識等を二年間学びます。対象となるのは、概ね四〇才までの農家の婦人です。

現在、一年次を千代田町で、二年次を、石岡市・土浦市で行なっています。来年度も、新たに、募集を行いますので、ぜひ参加下さい。

業改良普及センターに統合。(但し、平成七年三月三十一日までは現在のところ指導業務を継続します。)

国際化の進展する中、農業経営の難しい舵取りが求められますが、農家の皆様の期待に応えられるよう高度な経営及び生産技術、生活技術の普及、情報の発信基地として普及センターの活動体制を整えて参ります。

農家の皆様の身近な普及センターとして活用いただければ幸いです。



### 営農(十二・二月)

#### 水稲



平成六年、水稲生育期間の天候は、近年になく高温、多日照で経過し、特に台風の影響もなく作柄は良好となった。

田植期の五月は好天候で活着も良く、草丈・莖数も順調に生育した。六月に入って、梅雨らしい梅雨もなく、生育は引き続き順調で、長稈・多けつ型の生育を示した。

平成五年のいもち病多発の影響が、葉いもちの発生が平年よりも多かったものの、早期防除、好天候により抑えられ、穂いもち等の多発には至らなかった。

出穂期(四・五割の穂が出た時期)は、平年よりも七・一〇日ほど早く、七月二五・八月一日頃となった。幼穂の生育を確認しながらの、適期追肥ができたのかどうか、振り替えてみましよう。

昭和五三年以来の高温登熟となり、早生の初星や早目に水を落としたほ場では、乳白米が多くなり、等級をおとす結果となった。

また、地力チッソが平年より多く発現したと考えられ、下位節間(四節・五節)が思いのほか伸び、倒伏の原因となった。

平成五年の大不作。平成六年の大豊作。科学が発達しても天候だけはコントロールできません。安定した稲作を続けるために、「土づくり」を行ないましよう。

六〇kgの収量をあげる稲が吸収する肥料は、チッソで一三kg、リン酸で七kg、カリで二〇kg程度あることが分かっている。そして、稲の体をつくるケイ酸は、なんと一・二〇kgにもなる。このケイ酸は多くは土に含まれるが、年々吸収されるので補ってやる必要がある。更に根や葉の活力を盛んにするリン酸も必要となる。ようりん八〇kg、ケイカル一〇〇kg程度の土壌改良剤を施用し、天候に左右されない安定生産と、高食味米の生産に努めましよう。

#### 梨



昨年の冷夏とは反対に今年は記録的な猛暑となった。果樹では一部干ばつの影響を受けたが全体的には豊作となった。病虫害では病気が少なく、害虫の発生が多かった。特にダニの発生が多かったので、粗皮削りや誘引紐の摘除を徹底する必要がある。

梨の剪定では、昨年花芽の少ない関係で古枝を多用したが、今年

は花芽の着生も良いので側枝の更新をはかる。花芽を多く残さないように側枝の切り戻しを強くする。できれば、共同で剪定するようにしたい。

労力の軽減を図るため、千代田町で行われている剪定枝の燃焼法の導入も考えたい。剪定枝をトタムにはさみ圃場内で燃焼してしまいう方法で、枝を処理する労力が軽減される。しかし、煙が出るので住宅地での利用は控えたい。

最近では異常気象による災害が恒常的になりつつあるので、施設の設置による安定生産をめざしたい。防霜ファン・多目的防災網・灌水施設等の設置を検討したり、雨除け施設の導入や晩生品種の導入による収穫期間の分散も考慮したい。

特に、八郷町では山をかかえているためカメムシの発生が多いので、多目的網の設置は行いたい。

#### レンコン



本年度のハス田の一部で腐敗病・褐斑病の発生が見られた。次年度の作付けに当たり次のことに注意して下さい。

- ・腐敗病
- ・発病田の掘り取り後、くずレンコンを集めて焼却する。

### 町から村から

#### 八郷町

柿実品評会が開催される。

茨城県柿組合連絡協議会主催による柿実品評会が十一月一日八郷町フラワーパークにおいて盛大のうちに開催された。

今年、異常な高温と早魃等発生したが、全体的に大玉・高品質であった。出品点数八七点、ジャンボ柿一八点から、最優秀に飯田周次氏(八郷町十三塚)が受賞した。また、ジャンボ柿では五二〇gの大果を生産した渡辺順弘氏(八郷町十三塚)が選ばれた。

#### 石岡市

茨城乳業株式会社が操業開始、JA茨城県経済連と農協の共同出資により新会社「茨城乳業株式会社(本橋元社長)が完成しフル操業に入った。

これは昨今の酪農・農業の苦境打開策の一環として、県内酪農家の生乳生産から加工販売までの一貫体制を確立し、足腰の強い農家育成が図られる。

工場は、消費者交流の出来る施設も整備され、将来的には、茨城産の果物、野菜等の製品開発も計画中である。

#### 出島村

さる、十一月一日、出島村坂の農村環境改善センターにおいて、出島村農業三士の会が開催されました。

当日は婦人農業士の田所國子さんの海外研修報告と村長から村の農業政策の説明がありました。

このあと、出島村農業の活力を持つためには、三士の会としてどのように活動したらいいか熱心に話し合いが行なわれた。

#### 新治村

新治村では、近年顕著に見られる農業衰退を払拭するために、平成四年度に策定して第三次新治村総合計画・後期計画で構想した「農業振興公社の設立」を受けて、農地保有合理化事業、農地流動化の促進、農作業受委託の推進等を積極的に進めるため「農業公社」設立の気運が高まっている。

すでに水戸市や真岡市などの先進事例を調査・研究し、ま農業公社設立準備委員会も本年八月に発足し、生産組織の代表者を交え、実効性のある公社設立を目指している。

- ・ハス田は冬期も灌水しておく。
- ・植え付け一〜二か月前に石灰窒素一〇a当たり一〇〇〜一五〇kgを施用し耕起・代かきを行う。
- ・種れんこんは無発病田から健全なものを採取する。
- ・植え付け後は常時灌水しておく。
- ・褐斑病
- ・露地栽培では、六月上中旬から発生する。
- ・病徴は、最初針で突いたような暗褐色の小斑点が生じ漸次拡大して二〇mm程度の病斑となる。
- ・初発をみたらトップジンM粉剤等を七日間隔で二回散布する。



### れんこん産地サミット開催される

十一月七日、土浦市霞ヶ浦文化体育館において、全国のれんこん生産者等約二二〇〇人が参集して

れんこん産地サミットが盛大に開催された。

今回のサミットは、昨年のれんこん不作にもなる中国からの輸入れんこんの増加に対応して、今後の国内産れんこんの生産、流通対策をどう進めるかに主眼を置いて実施した。

大会はれんこん産地サミット実行委員長のJA土浦高嵯理事長の挨拶に始まり、橋本知事、国・県会議員、市町村長等多くの来賓の臨席の下に開会された。大会は基調講演とそれを受けたシンポジウムで構成され、最後に共同宣言を採択して、成功裡に終了した。

がんばっています



代表者  
中島千恵子さん

#### フレッシュミセス

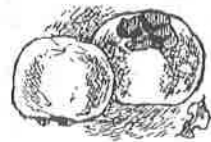
自主的な活動をめざすグループ「フレッシュミセス」(会員三七人)が平成六年七月に発足した。このグループは出島村で農業に従事している女性を対象に、新婦人農業大学講

座を今年三月修了した方々である。この会は、二年間の講座で農業簿記に取り組んで来たが、これからも引き続き全員で農業簿記を中心に活動を進めることになった。

主な内容は、我が家の経営収支決算のための記帳・経営診断・分析・農業労働に関する作業日誌の記帳・快適な作業装備として夏の紫外線カット地の作業衣や、冬の冷え防止の作業衣等の研究も取り組みはじめていく。

また、今回、村の文化産業祭に参加する事になり、役員が中心になって、レンコン・梨・米等の特産品を利用して、試食・販売に参加する事になった。当日は、人の出も多く、売れゆきも上々で盛況振りに疲れも吹き飛んでしまう程会員がはじめて力を合わせて成し遂げた事への満足感を味わった。

いつまでも、フレッシュに、前向きに活動することを期待する。



# 普及だより

平成7年6月15日 NO 3  
 土浦地域農業改良普及センター  
 土浦農業改良普及事業推進協議会  
 土浦合同庁舎第2分庁舎3F  
 土浦市真鍋5-17-26  
 電話 0298(22)8511  
 内線 250~261  
 FAX 0298(24)0918

## レンコンの高付加価値 商品開発をめざして



土浦普及センターでは、日本のレンコン産地を抱えるセンターとして、レンコンの高付加価値型商品の開発を目的として、ベンチャー型農業経営体育成モデル実験事業に、平成四年度より三年間継続の形で取り組んできた。

写真は事業の三年間の成果を消費者及び実需者に紹介するとともに、商品開発についての意見交換会を目的として、「レンコン関連商品開発懇談会」を開催したときのものである。

当日は、土浦市観光協会・土産品協会・調理士会・旅館業組合・消費者・生産者等約七〇名の参加者のもと、レンコンリキニール（商品名 蓮の雫）・れんこん麵・レンコンの葉茶等の新商品を紹介し、ホワイトロータスクラブ（農村女性グループ）により新たにつくられた菓子・惣菜等の試食会も行われた。

参加者からは、レンコンの特徴を生かしたヘルシーな食品に仕上がっているなど好評だった。

今後は土浦市を中心として商品の生産体制の確立や販路の確保等について検討がなされていく計画である。

### 新婦人農業士・青年農業士紹介

土浦普及センター管内から次の方々が、婦人農業士・青年農業士として認定されました。

今後、地域農業のリーダーとして活躍が期待されます。



山口照子さん  
 山玉里平成七年度認定



沼田悦子さん  
 千代田町上佐谷平成七年度認定

レンコン専作。生活と生産の場の区別をつけるため、労働時間を決めていく。ゆとりある経営をめざし「大変な仕事は短時間で」をモットーに励んでいる。

露地やさい・果樹・水稲。露地やさい栽培は労働時間が長いので作物や組合せ等で、労働の軽減をめざしたい。又、好きな花をくらしに添えたいと豊富を語っている。

### ハロー田植機

米生産の底コスト・省力化が求め



谷仲壮一さん  
 31才  
 八郷町大田平成六年度認定

酪農経営を中心として、普通作物との複合経営である。町農業後継者クラブの会長・酪青連等の役職を通して、中核的農業者として期待されている。

荒じろがかけられる状態で移植作業ができるため、今までの代かき作業を省略できる。また、下層土が適度な粗さに保たれるので、生育後半まで、

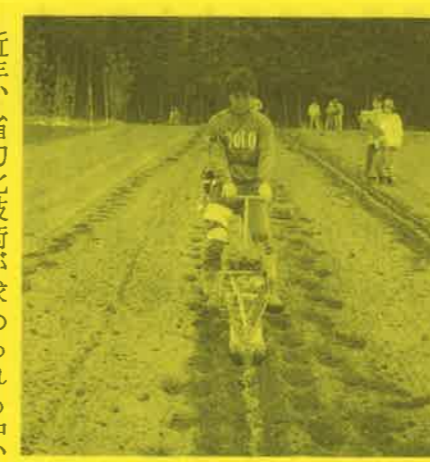


酸化状態が維持され根の活力が衰えず、生育・収量の安定が期待できる。

普及センターでは、土浦市と八郷町に展示圃を設けている。ハロー田植当日は、雨にもかかわらず大勢が集まり、関心の高さをうかがわせた。降雨で田面水が多く、良好なコンディションではなかったが、一〇a当たりの田植時間は二七〜三六分、欠株数は六〜七％とほぼ満足できる結果であった。

今後は、ハロー田植した稲の生育を見ながら、従来の代かき移植栽培と比較検討を行い、実用化を図る予定である。

### キクの移植機



近年、省力化技術が求められる中、キクの移植機が開発された。そこで、JAひたち野花弁部会を中心に、数社ある中から実用性が高い日本柑菜

製糖株の「ひっぱりくん」の実演会を行い、現在一台導入されている。「ひっぱりくん」を使うと作業時間は約三時間で一〇a定植でき、手植えに比べて大幅に短縮できる。但し、今までの手植えに比べて定植時の苗の大きさが小さくなるため、開花時期が異なると考えられており、今後、調査を行う予定である。

### プロジェクト発表

平成七年二月二十日、茨城県農業研究クラブ連絡協議会の主催で、農村青年プロジェクト実績発表会が行われた。当日は後継者や農業大学校生等多数の参加者が見守る中、各普及センターから選ばれた二名が発表した。当普及センターからは、出島村の平野氏が「消費者ニーズに応えられる花づくりを」というテーマで発表した。

内容は世代別に花に対する考え方や、好きな花の種類や色等のアンケートを行い、その結果から好まれる種類や色の傾向、価格の値頃感を割り出した。

発表はマケティンングリサーチの収容性を示すものとして評価され、優秀賞に輝き、関東ブロック大会の代表にも選出された。今後の活躍が期待される。

### 営農（七月九月）

#### 水稲

おいしい米を作るための中期管理について

食味計の登場により、コメのおいしさが数字で示される傾向となった。食味に及ぼす影響の一つにタンパク質含量がある。タンパク質含量が高いと御飯が固く、パサつたため食味が落ちる。そこで、タンパク質含量を低くする栽培管理が必要となる。タンパク質含量を高める大きな要因として「倒伏」がある。以下、倒伏を少なくし、かつ収量を落とさないための管理方法を示すので参考にしてください。

#### 一、水管理

茎数の過多が倒伏を招く一要因となる。適切な水管理により茎数管理はしやすくなる。田植え後四〜五週間たつと必要な茎数は確保されるので、ほ場で確認をする。必要とする茎数の八割以上あれば、中干しを始める。方法は、五〜一〇日間田面に軽く亀裂が入る程度を目安とする。その後は間断かんがいを行い水を切らさないようにする。なお、透水性の大きい砂質、耕土の浅いほ場では強度の中干しを控えて、間断かんがいをを行う。

#### 二、追肥

追肥時期や量を誤ると稈が伸びて倒伏を多くする。追肥時期は、出穂期何日前で表示する。コシヒカリの場合、出穂前二〇〜一五日が適期となる。また、追肥量は窒素成分で二kg程度とする。なお、追肥時期が遅くなるほど食味は低下するので注意する。

当センターでは、平成三年より定点ほ場を設け、生育調査をしている。過去四年間の平均値と追肥の目安を表に示したので参考にしてください。

表 出穂期と追肥時期の目安

出穂期	8月4日
出穂前20日	7月15日
出穂前15日	7月20日

品種：コシヒカリ  
調査場所：八郷町  
調査時期：平成3年〜6年、4ヶ年の平均値

#### 梨



・摘果の仕上げと見直し  
収穫前四〇日頃にS級・格外などを摘果し、商品性の高い果実だけを残す。小玉果の除去には、果実肥大表を参考にす。  
・夏季せん定・新梢誘引の実施  
発育枝が多い場合は、余分な新

### 町から村から

#### 土浦市

三月二十八日に農業経営基盤強化促進法に基づき、農業経営改善支援センターを設置した。

併せて構造政策推進総会指導班を設置し、今後認定志向農業者から提出された経営改善計画書の審査・認定を行うていくこととなった。

- ・主な経営類型は次の通り
- ・水稲専作（水田一・二ha）
- ・露地野菜（畑三ha）
- ・施設野菜+水稲（畑〇・六ha 水田三ha）
- ・れんこん専作（水田三ha）
- ・梨+れんこん（畑一・五ha 水田一ha）
- ・施設花き+露地花き
- （施設一・五a、畑一ha）
- ・養豚（年間出荷二、〇〇〇頭）
- ・酪農（総飼養頭数六九頭）

#### 八郷町

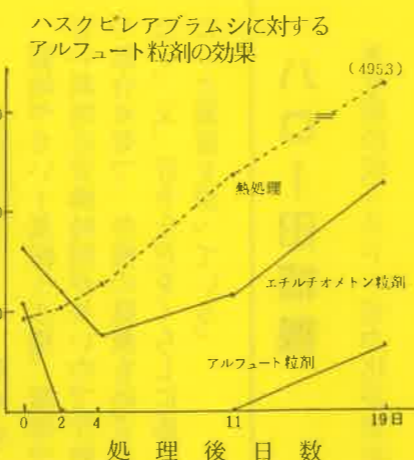
「農畜産物直売所がオープン」  
JAやさとでは、平成六年度豊かな村づくり事業の一環として園部選果場敷地内に農畜産物直売所を開設した。この施設は農協の直売所として運営し、組合員が生産した新鮮で安全な農畜産物を消費者へ提供し消費者との交流の場と、合わせて地域農業の活性化を図るため、今後の発展が期待されている。

#### 千代田町

「梨大玉生産モデル園設置」  
梨の高品質、大玉生産に向けて、平成六年度から町内十ヶ所（地区毎）に大玉生産モデル園を設置した。このモデル園は、梨銘柄産地育成事業の一環として地域の梨生産振興のモデルとなり、今後講習会等のは場として成果に期待が寄せられている。

#### 普及センターの異動

- ・四月一日付の定期異動により、次の職員が変わりました。
- 退職者
- ・杉山 一成
- ・転出者
- ・矢口 重雄（鹿島地帯持産指導所）
- ・里見 郁郎（下館普及センター）
- ・堀田 藤重（鉢田普及センター）
- ・長谷川哲郎（農業研究所）
- ・飯岡 国雄（つくば普及センター）
- ・橋本美津子（つくば普及センター）
- ・大塚 毅（江戸崎普及センター）
- ・転入者
- ・久保田 勇（結城普及センター）
- ・柳町 進（江戸崎普及センター）
- ・寺川 公博（鉢田普及センター）
- ・相田 次郎（農業研究所）
- ・浦野 永久（園芸研究所）



主な寄生植物はウメの木で、卵で越冬し、幼虫がふ化して増殖する。羽のある雌が多数できてハスなどの水性植物に移動して加害する。

#### がんばってます



こぶし会 会長 小松崎 美代子

秋になると雌、雄ができウメの木にかえって交尾産卵し越冬する。

#### 養蚕



★解じょ率の向上対策  
「良い物に安価無し」は、一般に理解され、誰もが認めている。新検定方では、解じょ率の成績のみで繭格がきまる。しかし繭価には生糸歩合も関係し、繭質の

#### 防除

◇発生が多い所  
ウキグサノ発生が多い所  
水の切れた所  
たい肥を多く施用した所

#### 防除

◇アルフエート粒剤及びエカチンTD粒剤、一〇a当たり四〜六kgを澁水処理する。またはジメトエート乳剤一、〇〇〇倍液を散布する。

#### ★上族環境の改善

蚕を上族すると安心し、その後の重要な族中管理をおろそかにする傾向にある。良い繭か、悪い繭かは上族後三〜四月間の族中管理によって決定する。最も適切な族中環境の温度二二〜二三℃、湿度六〇〜七〇％で上族室には必ず温湿度計を備えつけ、時々見回って場合によっては保温するなるして適正環境にして下さい

なお蚕病予防のため、蚕体蚕座消毒と、内部汚染繭防止のため、塾蚕消毒を実施して下さい

「果樹のふるさと千代田町」と言われるように、千代田町では梨、柿、栗、ブドウ、リンゴ等の栽培が盛んである。この果樹のふるさとで、農業で頑張っているお母さん達のグループが「こぶし会」（会員三十名）である。

こぶし会イコール栗の渋皮煮のイメージがある。活動の一環として「自家生産物の利活用」で栗加工の学習会を実施。栗という材料は豊富にあっても、渋皮煮なる高級品(?)は作ったことがなかったもので、満足し感激したとか。この栗の味を多く

の人に味わってもらいたいと「ちよだまつり」に出品したところ大盛況で、その後は年一回だけの限定販売をしている。『継続は力なり』と言われるが、勉強して良かったことは継続している。手づくりみそ、しめじづくり等々。人が集うということは情報交換の場であり、話し合う場づくりでもある。グループ活動はお互いに影響しあうから魅力的という。今後も本業の生きのいい梨づくりと、元氣印のくらしのためのグループ活動に期待したい。



平成8年1月15日 NO 4  
 土浦地域農業改良普及センター  
 土浦農業改良普及事業推進協議会  
 土浦合同庁舎第2分庁舎3F  
 土浦市真鍋5-17-26  
 電話 0298(22)8511  
 内線 250~261  
 FAX 0298(24)0918

## ゆとりあるゆうゆう農業への取り組み — 今泉花き組合 —



土浦市今泉地域は古くから花き栽培が盛んで、グラジオラス、アルストロメリア、ヤナギ類などが栽培されている。特にグラジオラスは、平成二年度に県の花き銘柄産地に指定され、全国的にも有数な産地である。

近年、規模拡大や栽培の周年化が進み、生産優先の経営のため、働きすぎなどの問題がおこっている。

このため、普及センターでは、平成六年度から今泉花き組合を対象に、生産と生活の調和のとれた産地づくりを推進するため、「ゆうゆう農業育成事業」を実施している。

この事業は、農業所得一千万円、一人当り労働時間二千時間、定期的に休日のとれるくらいし、などを目標にかかげ、推進組織やモデル農家を設置して、快適な作業環境づくりや、省力的な農業技術の組み立て、生活ルールづくり等を行ない、より豊かで、ゆとりある農家づくりを進めている。

今年の主な取り組みとしては、グラジオラスのは種作業改善をはかるため、省力機械の実演会を行った。これからの産地づくりは、所得の追求とあわせて、人間らしく生きるときの生活目標の実現が大切である。

霞ヶ浦をきれいにしよう

## 土浦地域リーダー研修会

二十一世紀を農業の企業化で  
 去る十一月十六日、土浦地域農業改良普及センター主催による「土浦地域リーダー経営研修会」がサンレイク土浦で盛大に開かれた。

一、パソコン活用と農業経営改善  
 と題して、JA土浦パソコン研究会長、小林芳行氏から発表があった。最先端技術のパソコンを根気よくマスターし経営改善に役立てている。

二、企業的花き経営を目指して  
 と題して、茨城県農業経営士、久家源一氏から発表があった。就農から現在に至るまでの経過、大規模花き経営での必須条件について話された。

三、二十一世紀に向けた農業法人化  
 と題して、富山県「サカタニ農産」代表理事の奥村一則氏の講話があった。平成七年度天皇杯に受賞の内容



農業を企業的感覚でとらえる。

で、米の生産から販売に至るまで、二十年後には、一千の稲作経営を  
 目指した、スケールの大きな話して  
 あった。

三者の共通点は、(一)先見の明(豊富な情報)、(二)実践力、(三)農業に対する前向きな姿勢と根気強さ、(四)人の育成等がうかがわれた。

もに、土づくり、有機物資源の活用、生物的防除等を基礎として農業の生産性を維持しつつ、環境への負荷を減らしていく必要性があります。

この目的を達成するために、今年度からの環境に配慮した低投入型農業(化学肥料及び農薬)を進めています。

## プロジェクト発表

平成七年九月十三・十四の二日間、長野県松本市において「関東プロジェクト農村青少年クラブプロジェクト実績発表会」が行われた。当日は茨城・栃木・群馬・埼玉・長野の五県の代表が発表を行い、茨城県は出島村の平野氏が発表を行った。

審査の結果、平野氏が優秀賞となり、二月に行われる全国大会に関東代表として選出された。



レンコンの減肥施肥現地研究会

## ソフトボール大会

去る十一月十四日(火)、千代田町営グラウンドにて、農業後継者クラブスポーツ交流会が開催された。

土浦普及センター管内の七市町村の農業青年が集い、総員八二名で、ソフトボールを行ない、さわやかな汗を流した。

参加チームは、前年度優勝チームの土浦れんこん研究会・石岡市梨連青年部十石岡市農業後継者協議会・出島村酪農同志会・千代田町梨連青年部・八郷町農業後継者クラブ・玉里れんこん研究会・フラワーサクセスクラブの七チームであった。

ソフトボールの結果は、千代田町梨連青年部が優勝、八郷町農業後継者クラブが準優勝であった。

後継者不足とさわがれる近年、管内には、約八十名程の青年がおり、農業を継いでいる。これらの青年達の今後の活躍が期待される。



霞ヶ浦をきれいにしよう

# 富農(十二) 水稲



十一月一日に新食糧法が施行され、今後は米の品質に対する要望が大変厳しくなってきました。このため、天候に左右されず、かつ美味い米をとるためには、まず第一に土作りがとても大切で、「平成の大凶作」と言われた平成五年のときは、収量並び品質は大きく低下しました。しかし、長年土作りを実施している農家では、収量並び品質の低下は極小さいものでした(表1)。

以下に示すことを参考に是非土作りをして下さい。

## 一、ケイカル施用効果

① 光合成の働きが促進され登熟が向上し、高温や台風時の水分蒸散を抑制する② 吸収されたケイ酸が表皮細胞に集積するため茎葉が強剛になり、いもち病などに侵されにくくなる③ 土壌の酸性を中和しりん酸と併用すると肥料の効きがよくなる。

## 二、ようりん施用効果

① 有効茎歩合が向上する② 層米が減少する③ 食味が向上する④ イナわらと一緒にすき込むと分解を促進し、地力を高める。

## 三、イナわら早期すき込み効果

イナわらには、多量の肥料養分が含まれており、土中にすき込んで堆肥化すれば肥料並び土壌改良の効果が期待できます。しかし、生のまますき込むと酸欠状態になり、ガス等が発生し、生育障害を与えるので年内にすき込むように腐熟促進に努めて下さい。なお、ようりん・ケイカル散布後すき込むとより腐熟が促進されます。

## 四、深耕効果

15cm程度の深耕により根の活力を高め、収量が向上します。更に保肥力を高め、土作りの効果が期待できます。

表1 土作りの優良事例 (平成5年、千代田町において)

	収量 (%)	等級(%)		
		一等	二等	三等
A 農家	160	85	15	0
B 農家	100	60	20	20

(300kg/10a)  
注) A 農家: ようりん20kg/10a、ケイカル180kg/10aを平成元年から毎年施用。  
B 農家: 土壌改良資材施用。

# 梨



## 梨の整枝剪定

樹勢低下、花芽着生不良が見られ、整枝剪定ではそれらを考慮し

予備枝を多めに残す必要がある。通常、樹冠 $m^2$ 当り一本が適正だがそれよりやや多めの利用がよい。側枝は短果枝、中果枝を利用し結実の確保に努める。側枝先端は強化が必要で強い枝を出させるために葉芽で切り返すか、花芽で切る場合も十分な戻しを加える。また、結実確保、葉数確保のため20~30cm程度の中果枝を積極的に活用する。側枝の密度は間隔が30~40cm程度、 $m^2$ 当り約3mが適正であるが、今年は花芽が少ない為、切りすぎになり易い。低樹勢樹や老木樹では切りすぎは逆に樹勢を落すため、ムダと感じても枝はある程度残す必要がある。剪定は切り落すことだけが目的ではなく、あくまでも先端の強化された充実した側枝を樹全体にまんべんなく配置することであるため、比較的勢いがあり特に三年生以内程度の若い枝であれば切り落す前にもう一度よりよい使い方はないか考えて頂きたい。

萎縮枝が増えてきている為、切り口の保護は是非行う。塗付剤は切った後できるだけ早く塗る。カールの上りを早くするような切り方をする。ダニ駆除のため結束ひもは必ず交換する。

# 町から村から

## 出島村

出島村では平成六年度に、農業基本構想を樹立して、本年五月認定農業者制度の説明会を実施した。その後、認定希望者の中から、経営改善認定申請書が提出された。十月の認定審査会で、三十戸の農家と一法人の申請が承認認定された。

## 新治村

新治村では、十年ほど前から坂田地区一〇九の畑地は場整備事業を計画していたが、受益地の中かなりの面積の果樹園を含んでいることなどから、事業が停滞していた。本年に入って関係者の熱意が高まり、何とかこの状況を打開しよう、数多くの会合がもたれた。十月に入って、坂田地区の受益者代表と関係者が、約十年前から同じような事業を導入してきた埼玉県の神川町を研修した結果、事業化の気運が高まってきた。

## 玉里村

ドジョウ養殖で地域の活性化 茨城玉川農協では二年前より水田の有効活用を図るため、レンコンハウスでドジョウ養殖に取り組んでいる。ドジョウは人工授精後、稚魚を放養し、十センチ位で出荷販売される。現在組合員十一戸の農家がドジョウとレンコンの複合経営の確立に向けて積極的に取り組んでいる。

## 八郷町

「柿」果実品評会が開催される 茨城県柿組合連絡協議会主催による平成七年度柿果実品評会が、十一月十一~十二日、県フラワーパークに於て盛大に開催された。本年は高温早ばつや、着果不良等の影響が見られたが適正管理によって見事な逸品が陳列された。総出品点数、九九点の中から最優秀賞には石岡市の小松崎儀工門氏が栄誉に輝いた。

# レンコン



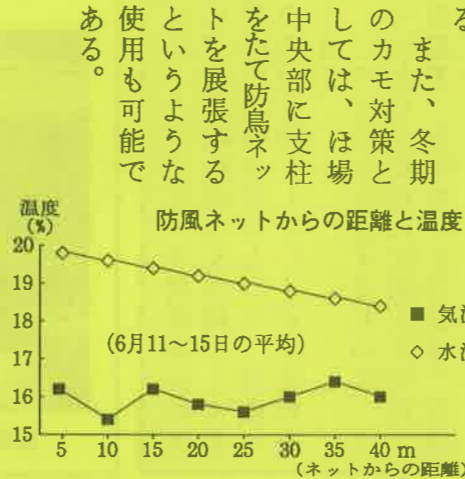
## レンコン田に防風ネット

ここ数年の間にレンコン田で防風ネットが見られるようになってきた。ネット内のレンコンの茎葉は、周辺にくらべ一回り以上大きく育っている。また地下茎の肥大については、十日程度早く、収量も一割程度高くなっている。

県でも、今年度より「農業生産体制強化推進対策事業」の一環として、補助事業により、防風ネットを推進しているところである。

図は、県農業研究所の稲田で調査したデータであるが、特に地温においてその効果が現れている。風速については、5m/sのときに、ネットから10m地点で約2m/sの防風効果があり、台風等による茎葉の損傷の軽減を図ることができ

る。また、冬期のカモ対策としては、は場中央部に支柱をたて防鳥ネットを展張するというような使用も可能である。



# 栗



茨城県は栗の大産地でありながら市場等からの評価は熊本産などに比べ低いのが現状です。その評価を上げるためには、第一に、園内で、出荷できる栗のみを収穫し残りは捨てるという徹底した態

度と意識を生産者の方々が持つことが大切だと思います。その意識を生産に生かせば栗は決して低収益作物ではありません。良い栗を作る為のポイント、まずは剪定にあります。樹を全体的に低くし、開心形あるいは杯状形にすることで各枝に日が当たり、古くても三年生内の若い枝で側枝を配置し、しかも充分なだけの樹冠の縮小と枝の制限が行われていれば単価的に有利な大玉生産が実現できます。理想的には改植、新植後若木の段階から低樹形に仕立て、栽植本数も30~40本程度が望ましいのですが、大木樹であっても実タンク病対策、大玉生産の為、剪定は是非実施して頂きたいところです。剪定法について詳しくは農協や当普及センターへお問い合わせ頂ければと思います。

## 頑張っています



みどり会 会長 横濱 富子

八郷町の農業に従事する女性で「みどり会」(会長、横濱富子さん、会員十九名)を結成したのは、平成二年のことであった。昭和六三年から平成元年の二年間八郷町において婦人農業大学を受講した人たちである。会を結成して早六年。縁あって八郷町に嫁ぎ、十年以上の歳月が過ぎ、「八郷町」と「農業」を共通点として「みどり会」があり活動を展開している。主な活動の内容は、地域農産物の有

効利用のため農産加工研修会、情報交換会、視察研修会、お楽しみ会として和紙工芸や旅行なども実施している。最初の出合いから八年、時の経過とともに、仲間の絆がより深まり、言いたいことが言えるようになったという。会合は、和気藹藹で言いながら、仲間の意見を聞きながら、自らを反省し、励まし、お互いに成長してきたという。今後は、農業の役割や食文化、地域文化等についても学習し、又農家だからできるゆとりあるくらしの実践を更に進めてほしいと期待している。







平成 8 年 6 月 20 日 NO 5  
 土浦地域農業改良普及センター  
 土浦農業改良普及事業推進協議会  
 土浦合同庁舎第 2 分庁舎 3 F  
 土浦市真鍋 5 - 17 - 26  
 電話 0298 (22) 8511  
 内線 250~261  
 FAX 0298 (24) 0918

# 果樹のふるさと 千代田の梨



千代田町の梨栽培面積は二二七ヘクタール、市場出荷の茨城千代田農協梨部会や直販の観光果樹組合等の組織がある。普及センターでは千代田の梨(梨部会)を管内の対象として生産技術や作業環境の改善、青年部組織活動の援助等に取り組んでいる。

千代田町の梨は現在、県の銘柄推進産地の指定を受けている。農協梨部会は部会員数一三七名、生産技術向上のための各種講習会や現地検討会、有利販売のための取り組みなど活動が盛んに行なわれている。また、七会、新治支部で選果場利用による共選共販体制が生まれ、さらに雨よけ栽培や多目的防災網の設置、防霜ファンの導入などもなされている。

生産技術面での課題は①大玉生産、②食味の向上など。特に最近では梨産地全体で収量の減少が見られ、着果管理技術や、剪定を含めた樹体管理技術の改善に取り組んでいる。普及センターでも今年度から事業の中で高齢樹の向上のため各種調査や検証等に取り組んでいる。また、町では大玉生産モデル園を町内一〇箇所設置している。

婦人部、青年部も組織化され、今後の活動が期待される。

霞ヶ浦をきれいにしよう

## 女性農業士・青年農業士紹介



大枝 良子さん  
石岡市谷向町  
平成 8 年度認定

養豚十水稲十栗。自宅から豚舎へは距離があるので通勤農業をしている。子供は男の子三人だが、自立心を育てるために家事分担をさせている。「明るく楽しく」がモットー。

施設バラ十水稲。施設切りバラをやっているので年中忙しいが、計画的な家庭運営に取組み、家族が健康で気持ちに余裕のある生活を目標として頑張っている。



長谷川光宏さん  
30歳  
八郷町真家  
平成 7 年度認定

チューリップを中心とした施設花き経営。花木類栽培の後継者としても活躍している。前フラワースクエスクラブ会長。今後の活躍が期待される。

### プロジェクト発表



平成八年二月九日、農村青少年プロジェクト実績発表会が開催された。当普及センターからは、八郷町の真家隆史氏が「チューリップの水耕栽培における遮光処理について」というテーマで発表した。

## 味名人・農産加工実践推進員紹介



小松 光子さん  
八郷町瓦谷  
平成 8 年度認定



農産加工実践推進員  
岡田幸枝さん  
平成 7 年度認定

味名人  
今泉みつ子さん  
平成 7 年度認定

県では、平成七年度から味名人と農産加工実践推進員を認定することとしました。これは、茨城の伝統食の継承と農業経営の向上に結びつく農産加工活動の推進をねらいとしたものです。

当普及センター管内では、土浦市の今泉みつ子さんと新治村の岡田幸枝さんが認定されました。今泉さんは、ホワイトロータス

クラブのリーダーとして、全国のレンコン産地でレンコン丸煮などの郷土料理を通じ消費拡大に取り組んでいます。

岡田さんは、村の農産加工技術員として活動すると共に、手づくり食品研究会のリーダーとして味噌や豆腐など消費者に本物の味を提供し、農村の良さを伝える活動を展開しています。

他で行われていない経営内容が評価され、優秀賞に輝いた。今後の活躍が期待される。

農業後継者結婚相談員紹介  
平成八年度農業後継者結婚相談員として、管内から二名の方が認定されましたので紹介します。

なお、相談にあたっては、事前に都合を確認してください。

(連絡先)

桜井 好 春氏  
出島村実倉二七八八二二  
TEL〇二九八一七七一六三二  
小松崎 美代子氏  
千代田町上志筑一一八  
TEL〇二九九一五九一四三五一

普及センターの異動

退職者  
高野 茂

転出者  
・ 広原通治 (大宮普及センター)  
・ 原田潔巳 (岩井普及センター)  
・ 栗原豊江 (麻生普及センター)  
・ 高松義正 (東京流通センター)  
・ 草野千恵子 (鹿行総合事務所)  
・ 滑川裕之 (江戸崎普及センター)  
・ 諸岡有子 (園芸研究所)

転入者  
・ 曾根原昭二 (下館普及センター)  
・ 来栖 聡 (結城普及センター)  
・ 本橋修二 (農業総合センター)  
・ 大貫照男 (蕪検定所)  
・ 中嶋ひさ子 (土浦保健所)  
・ 保坂光良 (笠間普及センター)  
・ 清水 裕 (下館普及センター)

土づくりを行いましよう

# 宮農(七月〜九月)

## 水稲



### 水稲の中期管理のポイント

一、水管理  
 間断かん水、中干し後は、水稲の穂となる部分が出来、この時期から出穂期までは田植え直後と並んで最も水が必要となる時期です。このため、二〜三日に一回水を入れる間断かん水を行ってしっかりと水を与えて下さい。

### 二、穂肥の効果

中干しが終わった頃から穂になる部分が出来ます。この時期は、籾数や籾の大きさを決定し、倒伏につながる下の節が急激に伸び、そして穂数が確保される重要な時期です。この時に肥料切れをおこすと穂数並びに籾数が減少し、粒も小さくなります。また、穂肥をしても施用時期を誤ると下の節を伸ばしすぎて倒伏を招いて減収し、食味を悪くすることにつながります。なお、穂肥の量は、窒素成分で反当二キロを限度として下さい。また代表的な品種の穂肥の目安を表に示したので参考にして下さい。ただし、表に示した数字を上回る生育をしている場合は、穂肥を控えるか穂肥時期を適期から一〇日遅らせるようにして下さい。

### 三、病害虫防除

いもち・紋枯病は、発生を認めたら直ちに防除して下さい。また、カメムシ類は、畦畔から侵入するので畦畔雑草を早めに刈取り、侵入を抑えるように努めて下さい。

品種別穂肥の目安

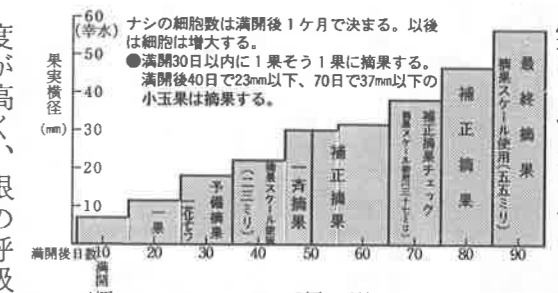
品種名	出穂前30日	出穂前20日	穂肥時期
コシヒカリ	草丈70cm 葉色4.0	草丈80cm 葉色4.0	出穂前20日
ひとめぼれ	葉色4.5	葉色4.0	出穂前20日
キヌヒカリ	葉色4.5		出穂前25〜20日

(参考)  
 ・葉色とは、(株)富士写真フィルム製「富士葉色カラースケール(水稲用)」の数字。ちなみに葉色4は、「若竹色」と同じです。  
 ・出穂前〇日は、幼穂(将来穂となる部分)の長さから判断できます。ほ場で生育が揃っている株から最も長い茎を抜き、剥いてくと幼穂が現れます。3本程度剥き、幼穂の長さを求めます。0.5mm以下ならば出穂前30日、3〜5mmならば出穂前20日です。

## 梨



昨年の日照不足で今年の梨の着果は短果枝中心になっている。短果は腋果芽に比して2〜3日開花が早い、今年の開花は4月28日前後で昨年より4〜5日遅れている。生育期間の2〜3日の短縮による肥大不足が心配されるので、肥大促進を図る基本技術の徹底を！  
 (1)満開後70日目(7月7日頃)の補正摘果チェックを早急に行い、37mm以下の小玉を摘果して、「目標着果数に仕上げる。」  
 (2)新梢誘引は花芽着生の促進や、果実肥大の向上につながる。時期は6月下旬〜7月上旬の伸長停止



する直前から始めるのがよい。また予備枝の再誘引も8月までには実施して、腋芽の着生を確実にしておきたい。夏季せんのは是非が言われているが、樹勢が弱い園ではやはりやらない方が樹勢回復や、玉伸びに寄与すると考えた方がよい。  
 (3)土壌管理、旬は土壌湿度が高く、根の呼吸が妨げられ、活性低下をきたしている。停滞水を排除するよう明渠などを掘る。また梅雨明けには急激な気温上昇と土壌水分不足が心配される。適当な水分を保つよう、草取り、マルチ、かん水等を行なう。適切な土壌管理による樹勢の維持と、果実の初期肥大で幸水の裂果は減らすことができる。  
 適期収穫。幸水は満開後一〇日でカラーチャートで三が適熟とされている。早どりは肥大不足、食味不良となり、消費者ばなれにつながる。各出荷組合の主体的な判断が大切である。

## 町から村から

### 土浦市

平成七年度に土浦市では、特産物であるレンコンの高付加価値のある新商品の開発と、広域的流通販路の確立を目指し「土浦市特産物高度利用協議会」を設立した。

協議会の活動の成果として、土浦市農協より「はすのお茶」の、製造・販売が開始された。  
 はすの葉茶は、中国では古くから宮中で、美形瘦身・漢方薬として飲まれている。  
 また、十月には、販売促進活動として「ハスの葉茶健康法」の著者、山ノ内慎一博士を招き健康セミナーを開催した。

### 新治村



農業公社のオープン  
 農業担い手の高齢化・兼業化・絶対数の不足、農業機械の過剰投資、耕作放棄地の顕在化などが、深刻な問題となっている。これらの課題に対して地域農業の総合マネージメント活動を行う機関として、農業公社設立の動きが、一年半前から本格的になった。先進地研修や推進会議を繰返し実施して、本年二月二六日に新治村、土浦農協の出資により、財団法人「新治村農業公社」が発足した。

### 石岡市



ひたち野農協直販所  
 農産物直売センターがオープン、平成七年度自立農業確立緊急対策事業により、石岡市農産物直売センター「石岡そだち(石岡市八軒台11〜36)」がオープンした。  
 これは、ひたち野農協直売所が中心となって地域農業の活性化を図るため、地元で生産される農畜産物をより「新鮮」「安全」「安心」などのこだわり嗜好に合わせ、生産者と消費者を結ぶ場として、今後の活動成果に期待が寄せられている。

### 千代田町

新品種、「黄白」の飼育  
 上志筑の霞貞夫さんは養蚕歴五十年のベテランで、今年蚕品種研究所の要請により新品種「黄白」の飼育に取り組んでいる。  
 黄白は、国の研究所で育成された。繭の色に特徴があり、雌が黄繭、雄は白繭となる。黄白の生糸を利用した特産品の商品化や繭の蛋白質を使ったコネクタクトレンズの開発など、今後新しい技術に期待されている。



先進地視察研修  
 視野を広めたり、先進地からの刺激は会の栄養剤である。  
 ◎地域社会活動への参加  
 市の青年農業会議や、地域農業の振興を語る会、グループ代表者会議等への参加は、農村女性として意見をのべる場であり、緊張する一時でもある。今後は、農村女性として時代の流れにとり残されることなく、磨きあえる仲間とともに情報交換を重ね、ゆとりあるくらしをめざして、「のぞみ」ある活動を続けたい。



土浦市「のぞみ会」  
会長 大久保 孝子

### 頑張っています

昭和六十三年に、土浦市上大津地区で婦人農業大学を修了後、自主的な学習を進める目的で、「のぞみ会」を結成した。発足して八年になるが、メンバーは、気心の知れた仲間と和気あいあいとした雰囲気の中で進められている。  
 活動計画は、役員会で相談しながら決めている。主な活動を紹介します。  
 ◎食生活の工夫  
 日頃主婦の腕前の発揮どころである楽しい食卓の演出や身近な食材を利用した料理は大変ためになる。

産流通指導センターの幸田センター長より、統計解析を基にした、「茨城れんこん産地が秘める販売可能性」についての情勢報告がされた。  
 また、「茨城れんこん発展に求められること」を題として、生産者、農協、行政、試験研究、普及の代表者によるパネルディスカッションが行われ、それぞれの立場



れんこん振興セミナー96  
 平成八年三月一二日土浦京成ホテルにおいて「茨城れんこん振興セミナー96」が県主催のもと、約二〇〇名の出席者を迎え開催された。  
 基調講演は小松鋭太郎先生の「茨城れんこん産地発展のために」と題した講演が行われ、県東京農

剤を二週間間隔で二回、あるいはジメトエート乳剤を一週間間隔で二〜三回散布する。  
 ・激発時  
 無翅虫がレンコンの立葉(巻葉)や若い葉柄上に重なりあって寄生し、葉の展開が阻害されるようなときに激発状態である。  
 ただちにジメトエート乳剤を散布して密度を下げ、さらにアルフェート粒剤を多発時と同様な方法で二

程度散布する。  
 理想的にはレンコンの肥大開始期である八月中旬には肥効のである七月下旬がよい。  
 しかしレンコン田に入れる時期が七月中旬頃までなので、それまでに追肥を済ませる。  
 主に窒素と加里を中心に行う。



平成8年12月20日 NO.6  
 土浦地域農業改良普及センター  
 土浦農業改良普及事業推進協議会  
 土浦合同庁舎第2分庁舎3F  
 土浦市真鍋5-17-26  
 電話 0298(22)8511  
 内線 250~261  
 FAX 0298(24)0918

## 石岡市の小菊 銘柄産地に認定される



去る七月一八日、土浦合同庁舎にて、平成八年度青果物及び花き銘柄産地指定証等交付式が開催され、石岡市の小菊が銘柄産地に指定された。花きの産地としては、土浦市のグラジオラス・友部町のキクに続く指定となった。

石岡市の小菊は、生産者44名で約33haの栽培面積である。出荷期間は六月から十一月であり、品種数は約120種類にも及ぶ。

平成五年に銘柄推進産地の指定を受け、現在までの三年の間に、

- ① 組織体制の強化
- ② 生産性の向上
- ③ 販売対策の強化

を中心に活動を推進してきた。特徴としては、市場取引が県内産地では唯一、予約相対取引を実施し、生産者の所得の安定を図っている。

今後の取り組みとしては、景気の後退による価格低迷が続くなかで、統合による大型市場や大型量販店に対応できるロット数の確保と品質の向上を図りながら、共選共販を更に拡大していく事である。又、新品種の導入・品種の整理を行ないながら、作期の拡大を図っていく事である。そして、人づくりと組織の強化に努め、競争力のある産地を目指してより更なる飛躍が期待される。

## 地域リーダー研修会

魅力ある企業の経営体の実現に向けた標記研修会を十一月二十二日、サンレイク土浦で開催しました。

この研修会は、関係市町村と農協等の協力を得て開かれたもので、当日は認定農業者や、石岡一高園芸科の生徒など百二十五名の参加者がありました。

午前中は、(財)農政調査委員会専門委員である山本文二郎先生から「農業の展望と企業の経営の確立」と題した講話でした。



午後は、「明日の見える農業経営の実践」というテーマでパネルディスカッションを行いました。パネリストは、八郷町の岩瀬直孝氏、土浦市の大関正氏、新治村の桜井洋子氏、出島村の飯田敬市氏の四名で、コーディネーターの農業総合センターの農業経営の川崎昇三主任専門技術員は、経営に目標を持って、実践計画を立て、それを一つ一つクリアすることが必要である。等とまとめ、参加者の合意を得、閉会しました。

## 改良資金での災害対応

農業生産者が自然の影響を強く受けるのは、今も昔も変わりません。台風による大雨や強風、降ひょう、低温による早霜・晩霜や、高温による干ばつなど、毎年多くの自然災害が心配されます。

今年も、普及センター管内だけでも、四月に気象台から「低温情報」が出され、七月三日には一部地域で「ひょう」が降り、九月二十二日には台風十七号の影響で、管内全域で突風が吹き荒れました。

梨の大生産地である千代田町や石岡市でも、大きな被害が出ました。これらの災害を未然に防ぐために、普及センターでは、ここ数年「多目的防災網」の設置を推進しています。そして、これを補完する制度として改良資金の中に、30a以上の園地を経営する方を対象にした「自然災害未然防止資金」が設けられています。これから多目的防災網等の導入を検討するときには、普及センターまたは各農協までお問い合わせ下さい。「多目的防災網」の導入で、品質の高い梨を、安心してつくります。



## 味名人農産加工実践推進員



味名人  
幕内又兵衛さん  
平成8年度認定



農産加工実践推進員  
西村ふみ子さん  
平成8年度認定

農村の食文化の伝承と農産物の付加価値付けを通じて農業・農村の活性化を図る平成八年度のいばらきの味名人と農産加工実践推進員に次の方々が認定されました。

いばらきの味名人には、石岡市の幕内又兵衛氏が認定されました。幕内氏は、石岡に古くから伝わる貝地の高菜の栽培と高菜漬の技術を保持し、広く伝承活動を行なっています。

また、農産加工実践推進員には、玉里村の西村ふみ子さんが認定されました。西村さんは、仲間を募って、加工施設を整備し、漬物、蒟蒻、惣菜等を直売所や農協購買部で販売し、手づくりの安全・安心の味を提供しています。

## JAやさと「地域総合産直」で朝日農業賞県代表へ

JAやさとでは、産直活動に取り組んで今年で二十年目を迎える。産直事業の発端は、組合員の営農体系の確立を目指して旧石岡地区連の中で協議会が設立され単協では出来なかつた生産販売体制が生まれ、「たまご」を東都生協へ送ったのが始まりである。

幾多の苦難を乗り越え、現在産直に関係する農家は、養鶏、鶏肉、黒豚、野菜、果樹等を含め約七〇〇名となり計画的に出荷されている。

八郷町は変化に富んだ地形と豊かな自然に恵まれ、美味しい米を始め多くの農畜産物が生産され、複合経営の確立に取り組んでいる。

また東都生協が提唱する「一点ではなく面として地域全体を視野に入れた産直」「地域総合産直」とし、農協と生協との協同事業としている。さらに都市と農村、消費者と生産者との交流活動を、体験農場等を利用し毎年実施している。

今後、八郷町の特性を活用し、各生産部会が「安全」「良質」「新鮮」な物を生産し、地域農業の活性化をより発展させようとしている。

この活動によって、朝日農業賞の県代表に選ばれた。

### 営農【二月〜三月】

#### 水稲

##### 水稲の育苗管理

昨年の育苗期間が多かったのは、芽が出ないということでありました。詳しく調査したところ、浸種の不十分が原因でありました。今回は、このことに付いて記しますので参考にしてください。

**浸種はしっかりと！**

種籾を発芽させるためには、十分吸水させ、酵素活性を高めて発芽に必要な温度と酸素を与えることが必要です。このどちらかが欠けても発芽はしません。

また機械で能率的に植える目的から、個々の籾の発芽、つまり芽出しを揃えて、スタートを同じにすることが非常に大切になります。

籾の吸水のしかたは決して一様ではなく、同じ品種の一袋の籾の中にも、早く吸水するものや遅いものがあります。水温が二十℃もあると、早く吸水した籾は早く発芽の動きを始めてしまい、遅い籾がまだ吸水しないうちに、芽切れして発芽ムラがおきてしまいます。また水温が十℃以下でも出芽は揃いません。それを避けるためには、胚芽が発芽活動を始めないよう水



温十〜十五℃を保つように置き場所や浸種方法を工夫することが必要となります。

浸種の目安は、品種によって異なりますので表を参考にしてください。

そして全ての籾がアメ色に見えるようになるまで十分に吸水させます。

**水交換はこまめに！**

水交換を行わないと、酸素不足により、腐敗等の発生原因となり、発芽障害となります。このため、水交換を水温十〜十五℃であれば二〜三日に一回、二十℃を越えるときには毎日交換してください。

表 品種別の浸種に浴する積算温度

積算温度	品 種 名
120℃	コシヒカリ・ひとめぼれ
100℃	上記以外の県奨励品種

例) 水温10℃のとき、浸種にかかる日数は？  
コシヒカリ：12日 キヌヒカリ：10日

水温 2〜3日に1回交換を  
10℃〜15℃



図 適水温と水交換の目安

##### 梨 生産性向上をめざした梨づくり

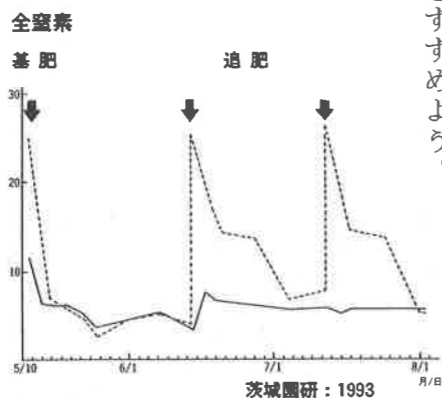


間隔35cm、m<sup>2</sup>当り側枝密度3m、予備枝m<sup>2</sup>当り一本以上とするなど。従来より多くしていた枝を多くした場合はそこに全花芽に着果させれば小玉化の危険性が生じる。これを是非摘らい、確実な授粉、早期摘果の徹底により大玉化を実現させて頂きたい。その他、カメムシ類等の病虫害対策、気象災害対策、施設化による出荷期間拡大なども課題である。

##### レンコン田の施肥改善



レンコン栽培は、一般に基肥十追肥二回の施肥体系がとられており、施肥時に田面水の窒素、リン濃度が一時的に高まります。そこで緩効性肥料を使った施肥法を検討しました。従来の施肥法



茨城農研：1993

の最も大きな要因は収量の低下である(表)。その背景には産地が抱えている様々な問題がある。樹や土の老朽化や生産者の高齢化、労働力不足など。その中で労働生産性を高めるため省力化が必要であり、剪定においても、ある程度枝をうすくすることが大玉生産には欠かせないことであった。確かに梨生産で大切なことは大玉果生産が収益、収量面での向上には有利である。しかし樹本来の生産性を高め、一定以上の着果数量の確保及び充分な果実肥大を得るためには葉枚数を一定量確保し、樹勢を適度な状態で維持していくことが必要。

そのために実施すべきことは、やはり「基本技術の励行」であると思われるが、最近では高樹齢化など産地の変化に伴い基本自体を見直さなければならぬ時期にきている。同時にそれらの変化に対して産地ぐるみで取り組まなければならない。

第一に土の問題。土づくりのための堆肥投入に関しては省力化のためにも地域など集団で堆肥盤等の導入に取り組むこと。施肥法に関しては土壌診断に基づき土地条件に適合した方法を確立すること

### 町から村から

#### 千代田町

##### 「町民ふれあい農園」を開催

社会教育課では生涯学習推進事業の一環として、庁内住民を対象にふれあい農園を開催し好評である。この中には、やさしい作りの体験を通じ、土に親しみ、農業の大切さを学ぶことにある。本年は、高温、早ばつや、台風等の影響もあったが、夏やさいから秋やさいまで比較的良い作柄に恵まれた。初めて体験する人が多く、雑草対策や栽培管理に熱心である。

#### 新治村

##### 新治村のコスモス回地

新治村の下坂田地区では、七、八の転作団地に景観形成作物としてコスモスの栽培に取り組んできた。

本年四月から、区長を中心に集落で協議しながらすすめてきた。七月下旬にドリルシーダーでは種。その後順調な生育をたどり、十月六日には、集落独自でコスモス祭りを開催した。

その後、常陽新聞等にも紹介されて、十月下旬の「新治村まつり」の際には、無料の摘みとりが多く参加者を集めて、実施された。



#### 石岡市

##### 梨園の若返りで経営改善

梨の生産力向上と経営改善を図るため、JAひたち野梨部会青婦部(森戸誉史部長)では、平成七年より三ヶ年銘柄産地老木梨園改植緊急対策事業に取り組んでいる。

近年梨の老木園が増加し、収量品質低下の一因となり経営が不安定となっている。この為、大苗移植等による改植を積極的に推進し、早期出荷と高品質生産による所得拡大を図り、銘柄産地の維持発展が期待されている。

#### 玉里村

##### やさしい産地を目指して

JAひたち野田余支店では、野菜部会(部会長 矢口雅敏十名)を中心として数年前より露地野菜の栽培に取り組んでいる。

これは養蚕からの転換作物として、有利で安定消費が望める小松菜を中心として導入されている。

作型としては、パイプ施設利用も含めて予冷庫等も使用した周年栽培である。

生産物は市場としての契約栽培であり経営の安定を図り、今後規模拡大等による所得の向上で、地域の振興作物として期待されている。



関係団体の示唆するところを積極的に試験し、結果に応じ導入する。第二に樹の問題について。高樹齢化により極度に生産性低下のめられる園での改新植の推進。管内では八郷町、石岡市で事業として取り組んでいる。また整枝剪定に関する栽培面積や労働力との兼ね合いもあるが、特に高樹齢に対し枝の切りすぎを避ける。側枝

梨の収量及び単価の推移

年度	昭.50	昭.55	昭.60	平.元	平.3	平.4	平.5	平.6
茨城県産梨の10a当り収量(kg)	3,470	2,684	2,505	2,506	2,506	2,196	2,186	-
茨城県産梨のkg当りの単価(円)	(昭.52)160	209	268	321	314	362	277	350

(注) 果樹統計(農林統計)及び青果物流通年報より

##### がんばっています



玉里パソコン研究会  
会長 上田一彦

玉里村パソコン研究会は、青年農業者の上田一彦氏と室町治男氏が中心となり、パソコンを経営管理に生かしたいと考えている農家を募集し、平成六年度に農業後継者七人、農業に従事している女性六人により、結成された組織である。

結成当初は、パソコンを、ほとんどさわったことがないという人ばかりで、簿記がパソコンで最後までつけられるようになるのか、心配されていた。しかし、全員でノート型のパソコンを購入し、学習会を開催していると、

「高い買い物をしたんだから。」と特に女性方が熱心に参加し、青色申告をパソコンで実施する農家も出てくるようになった。

現在も週一回、夜、農民会館に集まり、ソリマチの農業簿記、ロータス123による出荷伝票の集計等について学んでいる。

今後は、インターネット等による、農産物の販売等パソコンを使うことにより出来そうなことを、少しずつ学んでいきたいと思います。



平成9年6月20日 NO7  
 土浦地域農業改良普及センター  
 土浦合同庁舎第2分庁舎3F  
 土浦市真鍋5-17-26  
 電話 0298(22)8511  
 内線 250~261  
 FAX 0298(24)0918

## 地域農業の振興を図る 小町の里づくり (新治村)



新治村では、五年の歳月を費やして、小町の里づくりを進めてきており、その拠点施設となる小町の館が完成し、この度オープンした。これは、小野地域に残る平安時代の歌人「小野小町」伝説を題材にして、観光資源と地域農業の振興を結びつけ、都市との交流を通じた地域活性化を図る目的で進めてきたものである。特に、小町の館の食の工房は、農村女性による地元産のそば粉を使った手打ちそばを提供し、また、手打ちそばの体験が出来る施設となっている。

土浦地域農業改良普及センターでは、これまで村と一体となつて、直売活動の推進や水田を利用したそばの生産、また、小町の館の建設計画や手打ちそばの提供と体験に取り組み農村女性組織の育成など企画面から技術面まで取り組んできた。

さらに、今年度は普及センターの重点対象に位置づけ、「人が動けば村が変わる」をモットーに人材育成を始め、高品質観光果樹の振興、水田の高度利用によるそば生産、直売用野菜生産、そして女性起業活動の支援など、積極的な普及活動を展開している。

霞ヶ浦をきれいにしよう

## 青年農業士・女性農業士紹介



平成8年度認定  
幕内良一(36才)  
石岡市貝地

果樹専作経営、梨栽培の後継者としても活躍している。高品質安定生産を続けるための土づくりに取り組み、石岡市農業後継者クラブの会長、地域の良きリーダーである。



平成8年度認定  
塚本浩之(37才)  
霞ヶ浦町戸崎

レンコンと梨を中心とした複合経営。有機栽培による高品質、多収量生産に取り組んでいる。霞ヶ浦梨部会青年部長、地域のリーダーとして活躍している。



平成8年度認定  
諏訪宏行(35才)  
八郷町山崎

経営は「水稲+梨」。梨栽培は力の山を崩すために、早生から晩生までを導入している。栄養士という特技を活かして、自然の恵み豊かな農家の食生活を充実すべく頑張っている。

養鶏専業経営、品質に対するこだわりを持ち新鮮で安全な農畜産物の生産に取り組んでいる。何事にも積極的で地域のリーダーとして活躍が期待される。



平成9年度認定  
柏村清江  
石岡市石川

経営は「露地花(小菊・グラジオラス)+水稲+受託」。今後の労働力を考え機械化をはかったり寒菊にも挑戦したいと意気揚場である。「ゆとりある暮らし」を目標に頑張っている。



平成9年度認定  
栗原敦子  
新治村上坂田

### 女性ビジョンの推進

いばらき農山漁村女性ビジョンを  
ご存じですか

現在、農業に従事している六割は女性農業者である。女性農業者は、農業経営、農家生活の実践者として大きな役割を果たしてきた。それだけでなく、地域の住民とともに、地域社会を担っていく重要な役割も期待されている。

しかし、現実には、年令や性別による意識が根強く残っていて、たとえ能力があってもそれを発揮する場が少ない状況にある。これらを解消するため、ビジョンでは、新しい農山漁村の女性二〇〇一年に向けて、女性の地位向上をめざし、男女がともに理解し尊重し合って、積極的に社会に参画し、いきいきと活動できる方向を示したものである。

**農村女性の目指すべき姿とは!**

- 一、経営者として自覚を持ち、あらゆる場に共同参画し活動する女性
- 二、積極的に学習する女性
- 三、働きやすい労働環境づくりに努める女性
- 四、快適な生活環境や豊かな農山漁村文化を伝え受け継ぎ創出する女性

このような情勢の中で、農村女性は確実に変化してきている。

当普及センター管内にも、女性リ

ダーとして活躍している女性農業士(平成九年度現在十七名)がいる。更には、経営のパートナーとして経営管理や簿記記帳を学びパソコン操作に挑戦する意欲ある女性組織もある。みなそれぞれの課題に向けて活動している女性組織は二十四組織である。

そして、普及センターは女性が働きやすく、活動できる環境づくりを支援し、活力ある農村づくりに期待したい。

**普及センター職員の異動**

転出者

吉沢甚一(常陸太田普及センターへ)  
菅野俊子(県立リハビリテーションセンターへ)

センターへ)

高橋孝一(鹿行地方総合事務所へ)  
大地幸男(鉾田普及センターへ)  
三田村剛(大宮普及センターへ)  
小川孝之(岩井普及センターへ)

転入者

堀田藤重(鉾田普及センターから)  
太田利美(麻生普及センターから)  
堤仁一(農産課から)

市毛秀則(新採)

「農業茨城」の購読を  
農業とくらしの情報誌「農業茨城」を読んでみませんか。問い合わせは、当普及センターまで。

土づくりを行いましよう

# 営農【七月〜九月】

## 水稲



### 「おいしい米づくり」 ここがポイント

最近、「おいしい米」を求める消費者の声が増え、これにこたえようと、農家や農協が一体となり、取り組みを始めています。ところが、こちに見られる。

良食味米のコンシカリであったりも、その作り方を誤ると食味を低下させることになってしまいます。

食味を低下させないためのこれからのポイントを述べてみよう。

おいしい米は、①粒張りの良い、千粒重の大きいもの、②タンパク質含量の低いもの、であることが試験研究の結果分かっています。

そこで、粒張りの良い千粒重の大きな米を作るためには、茎数が適正であることが重要である。

茎数を取り過ぎると穂数が多くなり過ぎ、粒数が過剰となり、小粒の米になってしまう。

六月上旬で、一株当たり二十本程度の茎数が確保出来れば十分で、これ以降「中干し」をして無効分けつを抑え、根を痛める田の中のガスを抜き、最後まで働いてくれる根の活性を図ることが重

要となる。

さて、茎数管理が的確に出来たら、次にタンパク質を高くさせないために適期穂肥に努める。出穂期に近く穂肥をするほどタンパク質が高くなる。かと言って出穂前三十日では倒伏の心配が高くなる。そこで適期穂肥は出穂前二十日頃となる。

適切な茎数管理と適期穂肥でおいしいお米を作りましょう。

## 梨



### 高品質・大玉果生産をめざして

梨の果実は六月下旬〜七月以降後期肥大の時期となり、補正摘果が重要となる。満開後七〇日以降は表1を参考にS玉以下を除去し、大玉生産につなげる。

表1 梨幼果期の果実の大きさと収穫期の果実の大きさの関係(幸水)(茨城園研)

満開後日数	3L	2L	L	M	S	2S
50	33.7	32.1	30.8	29.8	29.0	28.2
60	38.4	36.5	35.1	34.0	33.1	32.2
70	44.6	42.3	40.4	39.0	37.9	36.8
80	53.9	50.9	48.5	46.6	45.1	43.7
90	64.8	61.4	58.7	56.5	54.8	53.3
100	75.4	72.1	69.5	67.5	65.9	64.4
110	84.1	81.0	78.5	76.6	75.0	73.6

注1)幸水、横径(mm)

梨の花芽は六月中旬ごろから分化し、えき花芽は七月中旬〜八月中旬に分化する。そこで新梢誘引を伸長停止し、伸長停止から行う。

## レンコン



### レンコン田のウキクサについて

レンコン田のウキクサについては、次の六種類が多くみられる。ウキクサの生態については、九月〜十一月に形成された種子または、休眠芽が土壌表面・土中で越冬し、水温が十度を越えると水面に浮上してくる。その後五〜九月にかけて(生育適温二十度から三十度)増殖を繰り返す。条件がえば幾重にも折り重なって生育する。レンコンへの影響については、

# 町から村から

## 土浦市

### JA土浦稲作部会(仮称)

土浦市には一四八五haの水田がある。レンコン田五〇ha、残りに水稲が作付けされている。近年受委託面積が増加の傾向にある。このような中で地域の稲作を考える四十名の後継者が省力・低コスト稲作の研究、その上良食味生産技術の確立を目指し、日夜研究を重ねているところである。

## 霞ヶ浦町

### レンコン田の土づくり

土浦農協島れんこん部会及びレンコン研究会が主体となり、地力の低下、土壌の固化を改善し、品質・収量の安定化を図ることを目的に土づくりの展示圃を九ヶ所設置した。有機質の材料はフトール一号、三号、オルガグリーン、大豆粕、菜種粕、醗酵牛糞、醗酵豚糞、醗酵鶏糞等八種類を用いた。今後、現地研究会、検討会を開催、三年継続で経過を見て行く予定であり、成果が期待される。

## 小菊



今年の作柄は、六・七月咲きで、約十日程はやまっている。しかし、八月咲きについては四月中旬の電・五月上旬の風が影響しておりや遅れる傾向にある。

これからの作業で大切なのは、病害虫防除であり、ここでは、多発が予想される白サビ病・最近話題の害虫について示しておきます。

- ・白サビ病
- ・春・秋の多湿条件で多発
- ・ジマンダイセン+ダコニール
- ・サプロール
- ・トリフミン乳剤
- ・感染したら治療効果のある次のラリール乳剤
- ・チルト乳剤

が効果的である。しかし、連用すると耐性がつき効果が半減する。

- ・ハモグリバエ類
- ・五月から発生し夏に多発する。
- ・オルトラン水和剤
- ・カルホス乳剤
- ・昆虫成長制御剤(カスケード乳剤・トリガード水和剤)は、幼虫・蛹の脱皮阻害し成虫の不妊化作用し各ステージで抑制する。
- ・アザミウマ類

春から秋で夏に多発する。アドマイヤー粒剤・水和剤トクチオン・エンセダン

モスピラン・オルトラン等 この他に脱皮阻害剤をローテーションに組み入れ、薬剤のタイプをかえ、防除する事が望まれる。



## がんばってます



石岡市「梨朋会」  
会長 信田 ひろ子

「梨朋会」は、婦人農業大学OBで、十二名で組織している。全員が梨栽培の実践者である。主な活動内容は、第一に梨の栽培技術の向上のための研修会である。仲間の又梨組合員の優良事例を見ながら技術研修会を実施している。今までは石岡市内の梨園での研修だったが、今年近隣市町村へ研修に出かけようと計画している。

「梨朋会」は、各組合への参加である。普及センター主催の「生き生きセミナー」

## 玉里村

### 小松菜の産地化へ好スタート

玉里村では平成八年に野菜部会を結成(会長矢口雅敏さん・部会員十名)。生産量増をめざし会員を募集しているが、部会員自らも出荷量三十ケースを目標に規模拡大を図っている。具体的には、周年出荷のため今秋にハウス導入の予定。

更に単位収量向上とベト病耐病性検定を併せた品種試験を行っている。小さいけれど、キラリと光る産地を目指して関係者共々一丸となって取り組んでいる。

## 八郷町

### 梅部会、加工に手がける

JAやさと梅部会は六十九名で、十五の梅を栽培している。昨年はじめて、梅干加工用に完熟梅を出荷したところ、品質の良い梅と好評だった。今年は一歩先に出ようと、梅部会が一次加工に挑戦する。

梅の産地がたくさんあり、梅の販売も工夫が必要な時代である。部会の組織力と加工技術を高め、有利販売をめざし奮闘中である。





平成9年12月15日 NO.8  
 土浦地域農業改良普及センター  
 土浦農業改良普及事業推進協議会  
 土浦合同庁舎第2分庁舎3F  
 土浦市真鍋5-17-26  
 電話 0298(22)8511  
 内線 250~261  
 FAX 0298(24)0918

# おいしいお米を作ろう！ JA やさと稲作部会の挑戦



◀「良食味米生産は基本技術の徹底にあり」稲の生育を確認し、茎数管理をしっかりと



▶「米の食味は、穂肥の時期・量にあり」  
穂肥適期を的確につかむ

新食糧法の施行など、米を取り巻く環境の変化を受けて、八郷町のどこで誰が作ってもおいしいお米を作らなければ消費者は離れていってしまうと言われている。八郷産米の品質向上、食味向上をさらに図るため、JA やさと稲作部会は設立された。どのよう栽培すれば食味が向上できるのか、平成七年から各支所ごとに八ヶ所の食味向上研究ほを設置し、農業改良普及センターでは栽培管理技術の実証と確認を行い、良食味米栽培マニュアルを作成することとしている。

また、これらは場を研究の場とし、適正な茎数管理、水管理、適期穂肥など食味に影響を及ぼす管理技術について、普及指導の徹底を図ってきた。

一方、生産された米がどのような品質なのか食味分析を行うと共に、栽培管理の実態調査を行い、改善点を把握し指導の方向を確認してきたところである。基肥が多すぎる事例や、不適切な中干しや穂肥施用の事例などが確認でき、これらの改善に向けて稲作部会を中心に町全体で取り組みが展開されている。

更に今後も米で生き残れる体質づくり強化に向けて挑戦が続いている。

霞ヶ浦をきれいにしよう

## 農業後継者相談員の紹介

後継者相談員とは、次代の農業を担う若い農業後継者の就農に関すること、結婚に関すること等身近な相談に応じています。

土浦地域農業改良普及センター管内では、次の二名の方が、後継者相談員になっていきますので、気軽に相談下さい。

桜井 好春  
 霞ヶ浦町実倉二七八八―二二  
 TEL 〇二九八―九七―一六三一  
 小松崎 美代子  
 千代田町上志筑一―八  
 TEL 〇二九八―五九―四三五一

## 農業改良資金について

農業改良資金助成制度は、昭和三年に創設され、今年で四三年目を迎えました。改良資金は、農業者が新しい農業技術等を自主性と創意を生かして先駆的に導入する場合に、国と県が資金を貸付する制度です。改良資金の種類には、大きく分けて、次の四つがあります。

①生産方式改善資金  
 高性能な農業機械や施設の導入や生産方式の導入に必要な資金。

②経営規模拡大資金  
 規模拡大を図るため農用地の利用権を取得（農地取得は不可）するのに必要な資金。

③農家生活改善資金  
 婦人又は高齢者が自主的な創造活動を行ったり、共同で生活環境を改善するのに必要な資金。

④青年農業者等育成確保資金  
 青年農業者（三九歳以下の農業後継者）等が、技術や経営方法を習得したり、新たな経営を開始するのに必要な資金。

農業改良資金は農業者が無利子で、保証人による債務保証で利用できる有利な資金です。しかし、新生産調整（転作）にご協力を頂いていることや、償還終了時に七〇歳未満であること等の条件や制限が設けられています。また、申請から決定までは、ほぼ二ヶ月以上の期間が必要で、改良資金の活用を計画される場合には、早めに普及センター又はお近くの農協に相談して下さい。

農業改良資金は、土浦地域農業改良普及センター管内では平成八年度一年間に一人の利用があり、約一億円の資金が活用されています。農業改良資金を利用して、活力ある農業経営を展開しよう。

## 食味Q&A

米の品質は外観品質と内観品質の評価になります。従来は「外観品質」により行われていた食糧法に基づく「検査」そのものです。

茨城県は、整粒歩合が低い・千粒重が軽い・屑米の混入が多い・過乾燥であるとの評価である。

一方「内観品質」とは米の食味そのものを指し、各メーカーが食味計の発売により一般に知られています。当普及センターには「良食味米生産」を目的として、平成八年に導入された。現在の約六〇〇点の分析をしました。この結果は茨城県の基準であるAランク（蛋白質六・九%以下）が八七%強であった。

しかし、新潟県魚沼産米に比較すると同等の品質米は二六・三%程度に減少します。

従来「この米は旨い」という話が必要でもそうではないということ。確かにそういう地帯はさほど努力しなくてもそこそこの品質を維持できますが、栽培方法により格差が生じます。大粒で美味しい米作りを推進しましょう。



## 土浦アグリフォーラム98開催

来る、平成十年一月二七日、土浦市民会館において、「土浦アグリフォーラム98」を開催します。

今日の農業、農村は、国民へ食料の安定供給し、国土保全や自然環境の保護にも大きな力を発揮してきています。しかし問題は山積み状態です。そういう中であっても互いに英知を出し合い創造性豊かな環境づくりを推進しゆとりある農業経営をめざしていきたい。そのために農業者が一堂に会し、提言、研さん、討論していくフォーラムとしたいと考えています。

日時 平成十年一月二七日（火）  
 午前九時～午後三時三〇分  
 場所 土浦市民会館（小ホール）  
 内容 ①直売所からの提言

農業法人「みずほ」  
 つくば市 長谷川久夫氏  
 ②管内農業者 三名の事例  
 発表・提言

③講演会  
 「地域農業活性化への提言」  
 経営コンサルタント・プロ  
 ジェクト・プロデューサー  
 静岡県 鈴木俊博氏  
 多くの方々の参加をお待ちしております。

土づくりを行いましょ

営農【二月〜三月】

水稲



昨年度の水稲の作柄については、四年連続の豊作でした。しかしながら水稲は気象条件に左右されやすく油断してはなりません。土づくり、育苗管理から基本技術の励行を徹底しましょう。

①よりりん・ケイカル（土壌改良剤）の施用  
よりりんの施用は、分けつ促進、屑米の減少、食味の向上などに有効です。ケイカルは施用は、茎葉を強固にし、倒伏やいもち病に強くなり、また光合成の働きが促進され、登熟を向上させます。

②稲わらのすきこみ  
稲わらには、多量の養分が含まれており、土中にすきこんで堆肥化すれば肥料及び土壌改良の効果が期待できます。しかしながら生のまますき込むとガスを発生し、生育障害を与えるので、よりりん等施用後に、耕うんするように心がけてください。

③浸種について  
種籾を発芽させるには、十分に吸水させ、発芽に必要な温度と酸素を与えてやる必要があります。そのため、水温を十〜十五度を保つようにしてください。浸種期間は、積算温度（水温×日数）で判断し、コシヒカリとひとめぼれは百二十℃、それ以外は百℃を基本に行ってください。また、浸種期間中は、種子が酸素不足になりがちです。二〜三日に一回は必ず水交換を行ってください。

④育苗  
昨年は育苗期間中、天候に恵まれ順調でしたが、一部で焼け症状、病害の発生がみられました。これは、換気や灌水の不手際が原因です。十分注意を払ってください。

リンコン



昨年産れんこんの作柄については、定植期温暖に経過したため、活着はスムーズでした。六月に入ると低めの気温で経過し、また台風等の風害等により生育は抑制傾向であった。その後は比較的高温・多日照で経過したため、収量的には、平年作となった。

⑤土づくり  
れんこん栽培の、土づくりをする上では、重要な時期である。

土壌改良材及び堆きゆう肥については、植え付けの一月前までに施用し、耕起等を行い土となじませることがポイントである。（本年作においては、未熟な有機物の施用により、根ぐされ等が発生し、初期から中期生育に障害の発生したほ場が見受けられた。）未熟な有機物の施用には、充分な注意をして頂きたい。

また、発生の多いほ場では、植え付け一ヶ月前に石灰窒素50kg/10a程度施用し、植え付け前にオーソサイド80水和剤5kg/10a土壌混和する。

⑥イネネクイハムシ対策  
被害発生の多いほ場では、ダイシストン粒剤または、エカチン粒剤を植付時に植穴に4kg/10a施用する。

特に、アブラムシ防除を乳剤のみにより行なっているほ場については、発生が多くなってきたので注意する。

町から村から

土浦市

JA土浦農業まつりの一環として第一回土浦れんこんコンクールが開催されました。今年植付け後六月台風にも遭い、心配されましたが、生産者の努力によりいづれもすばらしいれんこん一七点が土浦市、霞ヶ浦町より出品されました。この中から品種の特性など見極め三十点を選出し、報奨されました。このコンクールは、有利販売につなげる第一歩、優良なれんこんの生産と品揃えであり、今後の生産と流通面の強化に役立つものと思われまます。

石岡市

ひたち野農協石岡梨部会員八名は、一・七haのハウス梨栽培に取組んでいる。十一月からハウス建設におおわらわで、二月にビニールが張られ、七月の中旬には、甘い梨の収穫が待たれる。経営的には、価格の高値安定と収穫期の拡大による労働力の配分等が期待出来る。

若い八名が、新しい技術をマスターして、生産性の向上と梨部会の活性化に一役を担っている。

千代田町

観光農園をインターネット化

果樹のふる里千代田町では、果樹観光協会に加盟している農家（53戸）について、果樹の種類毎に連絡先や地図、施設内容等をパソコンでわかりやすく紹介している。

このホームページを上手に利用すれば、クリ拾いとナン狩りを同時に楽しむ計画が可能となる。また、情報として観光農業のみでなく町内に伝わる名所、伝説や果物の食べ方等も紹介している。

http://www.net-ibaraki.ne.jp/chiyoda/home.html

霞ヶ浦町

関東では埼玉県に次ぐクワイを栽培している霞ヶ浦町では、町クワイ生産研究会が中心となり、生産活動を展開している。

十一月には市場をはじめ関係機関を集の下、目揃会を実施した。

今年の作柄は良好で育ちが良い。出荷は十一月下旬から十二月二十六日まで続くが、近年、集中出荷が目立ち価格低下を招いている。

計画出荷、定量出荷で価格安定を図り、更には品質向上に期待したい。

がんばっています



ホワイトロータスクラブ 代表 飯泉茂子

近年、消費者ニーズの多様化に伴い、農畜産物の流通販売方法も多様化してきた。青果物は市場出荷が主流であるが、産直販売・インターネット通販・観光農園等、いろいろな流通販売がされている。これからは農業者として生き残る道は、流通の多様化の中で、どのような流通販売方法を選択するか極めて大切である。

売先をどこにおき、売り方をどうするか、そのために、どんな作物をどのような栽培方法で生産するかが重要である。いわゆる、生活と経営目標を設定し、その達成の為の営農計画の樹立である。そこで特に注意すべきことは、自ら情報を迅速・的確に収集分析

農家の皆さん、どう思いますか、考えてみませんか、こんなことを！

し、売り先を決め、消費者ニーズを的確に捕らえ、流通販売方法をどうするかを検討する。ただ、生産されたから売るのはなく、商品であることを自覚し、売り先を前提に販売の戦略・戦術を立てねばならない。今や市場では、量販店扱い量が増加し、七割を越す先取相対取引が主流となっている。本来、市場価格決定は、公正・公平・公開の三原則の基に「セリ」で決まる。しかし実態はそうではなく、買手市場で不透明な点も少なくはない。また、「量は力なり」の時代でなく、大規模出荷組織で大量販売は必ずしも、生産者側に有利とはいえない面もある。流通段階が多くなれば費用は増加する。

普及センターとしても、最新技術や経営管理能力向上の情報を積極的に提供し支援に全力をあげている。是非、大いに活用されることをお願いいたします。

土浦地域農業改良普及センター長 曾根原 昭二

ホワイトロータスとは「白いれんこん」という意味であり、会員は全員がれんこん栽培農家である。結成の動機は、れんこんに付加価値を加え消費拡大に結びつく活動を進めようと平成五年に組織され、現在九名の女性で活動している。

結成から惣菜、おやつ等、日常生活の中でれんこん利用法の研究に没頭、PR活動をしてきた。平成八年度には、JA土浦れんこんセンターにパウダー製造施設が完成、こ



# 普及だより

平成10年7月1日 NO 9  
 土浦地域農業改良普及センター  
 土浦合同庁舎第2分庁舎3F  
 土浦市真鍋5-17-26

電話 0298 (22) 8511  
 内線 250~261  
 FAX 0298 (24) 0918

## 1億円産地をめざして 玉里村のコマツナ



現在、玉里村でコマツナによる新しい野菜産地づくりをすすめている。玉里村と言えば、県銘柄青果物としてのレンコンは有名だが、平成八年二月にひたち野農協田余支店野菜部会として新品目である「コマツナ」をとり上げ生産を始めて今年で二年になる。斜陽傾向にあった養蚕業に換わる品目として、高齢者や女性にでも容易に取り組み、県内での競合産地の少ない「コマツナ」は、徐々に普及の兆しを見せている。

現在のところ十三戸がコマツナ生産に取り組んでおり、昨年四〇アールのパイプハウスを導入し、農協・村の援助のもと周年出荷のできる産地化に向けて整備が進められている。

普及センターでは、コマツナ産地育成のために、基本的栽培技術の他、周年栽培技術の修得を目ざして講習会・研修会を実施しているところである。また、労力や経営内容に応じた作付体系の確立、環境に優しい栽培技術の導入等も検討中である。

生産者の合言葉は「一億円産地への挑戦」である。スタートしたばかりのコマツナ産地の取組だが、今後の展開を注目したい。

霞ヶ浦をきれいにしよう

### 農業経営士

平成十年度認定  
 萩原 巖 (45才)  
 新治村大字藤沢新田

水稲中心の土地利用型大規模経営で、麦、ソバの受託を実施し、経営改善に取り組んでいる。新治村農業委員等、多数の役職を持ち技術、組織のリーダーとして活躍している。

### 青年農業士・女性農業士の紹介

平成九年度認定  
 大関 忠 (34才)  
 土浦市今泉町

「レンコン+花き類」の複合経営で、有機質肥料を主体にした土づくりによる良品、多収栽培を行っている。土浦レンコン研究会に所属、地域リーダーとして活躍中。

平成九年度認定  
 栗山国夫 (33才)  
 土浦市栗野町

レンコンに加工ジャガイモを加えた複合経営を実施、土づくりを基本に良品生産に努めている。土浦レンコン研究会に所属し、地域リーダーとして活躍している。

平成九年度認定  
 野口 誠 (31才)  
 玉里村玉里

レンコン専作経営。有機質中心の施肥による良品生産、作業改善による省力化栽培に取り組む。農協青年部・玉里レンコン研究会の活動にリーダーシップを発揮中。

### 荒廃園の管理について

#### 荒廃園をなくそう

社会情勢の変化に伴い農業者の高齢化、女性化、担い手の不足、不在地主等により栽培放棄の田や畑が目立ってきている。これらの荒廃農地は、

- 一、病虫害の生息地となる。
- 二、雑草の発生源となる。
- 三、農村の景観を損ねる。
- 四、冬期火災の危険域となる。

等の問題をかかえています。荒廃園を整理し土地の有効利用が急務となっている。

#### 梨園に対して

今年も、雨が多く「黒星病」や「赤星病」の発生が目立つ。特に管理放棄梨園の隣接地で発生が目立つ。虫害では「シンクイガ類」「ナシチビガ類」「カメムシ類」の生息地となり、これらの虫が他の梨園に飛び込む恐れがある。集落ぐるみ、あるいは、生産部会等で栽培放棄農家の理解をえて、速やかに解決したいものである。

#### 遊休桑園の管理

遊休桑園は病虫害発生温床となり、さらに農地としての維持管理上等からもその利用が求められている。このため、病虫害の撲滅には、六月～九月の幼虫発生期にDDVP等の一、〇〇〇倍液を三回程度散布する。また、農地としての有効利用には、放置桑園の桑株を、十二月～三月にチェーンソー等で株元の切り口にグリホサート液剤の四倍液をハケで塗布して枯死させ、野菜等を作付する。なお、暖冬の年は樹液の流動を開始する二月末までに終了する。

平成十年度認定  
 子代 千代子 (30才)  
 谷町八郷

経営はレタスを中心とした露地野菜の専業農家である。有機低農薬栽培で朝どり出荷をし、消費者との交流をしながら「おいしいレタスづくり」に励んでいる。

土づくりを行いましょう

萩原は原稿ともう一度見合せる、

大きく他社同様に

少し小さく



平成11年6月20日 NO10  
 土浦地域農業改良普及センター  
 土浦合同庁舎第2分庁舎3F  
 土浦市真鍋5-17-26

電話 0298(22)8511  
 内線 250~261  
 FAX 0298(24)0918

## めざそう品質日本一 (レンコン)



優良品種選抜作業

霞ヶ浦湖岸地域の土浦市・霞ヶ浦町・玉里村は全国有数のレンコン産地として知られ、本県レンコンの約六〇％に当たる一、〇〇〇haの栽培があり、京浜市場シェアの大部分を占める。この地域のレンコン栽培は、昭和四三年以降一挙に増加し、現在、露地栽培を主体にトンネル・ハウス栽培が導入され周年出荷栽培が確立されている。また、平成元年と六年に霞ヶ浦町、玉里村が、銘柄産地指定を受け、更に昨年度からは、園芸日本一の一翼を担うべく「一〇アップ運動」に参加し、生産・販売・流通等への積極的な取り組みを展開している。当普及センターでもこれまで地域にレンコンを考えた研修会や、収量品質の向上を目指した現地検討会等を開催し、生産安定と良品生産に努めてきた。

昨年度、産地の再点検を新たに実施したところ、多品種化の問題、栽培土壌による収量、品質の差、多肥による収量低下等、種々の実態と改善点が明らかになった。これを基に、今年度からは、明日のレンコン産地を担う研究組織を核に実証圃等を設置し、品種・施肥量等の生産技術検討を行ない、品質日本一のレンコンづくりを目指している。

霞ヶ浦をきれいにしよう



雨よけ栽培を加えた梨専作農家で、多量の有機質を投入、徹底した土づくりを実施、高品質の梨を生産している。旧八郷町園芸青年部長としても活躍し、後継者の育成に努力している。



平成十年度認定  
友部 敏英 (35才)  
八郷町山崎



平成十年度認定  
谷田部 章夫 (36才)  
八郷町柿岡

## 青年農業士紹介

水稲の種子生産を基幹とし、生協出荷の露地野菜を組み合わせた複合経営を行なっている。  
八郷町採種経営研究会に所属し、若手のリーダーである。

## 技術実証展示圃

### レンコン

土壌に合ったレンコンの品種、施肥技術の確立実証圃の設置  
レンコン栽培品種の多様化、土壌、土性の違いによる品質、収量の差、多肥施用栽培等問題が生じており、栽培品種特性の明確化、土壌、土性の把握による適品種の栽培、土壌に合った施肥の適正化が課題となっています。そこで、管内レンコン産地の維持・発展を図るために実証圃を設置し、課題解決に向けた活動を平成十一年度から平成十三年度にかけて展開します。

土浦市では、土浦れんこん研究会を対象に栽培品種の比較を行ないます。

玉里村では、玉里れんこん研究会を対象に、土浦市と同様に栽培品種の比較圃を設置し、適品種の選定を行ないます。

霞ヶ浦町では霞ヶ浦町れんこん経営研究会を対象に施肥改善実証圃を設置し、適正施肥栽培を実証します。

土壌、栽培品種、施肥の関係を明確化し、栽培マニュアルを作成、普及して行く計画です。

### 梨

梨大玉多収穫栽培モデル展示圃設置  
管内の梨は、栽培の歴史が古く、老木園が多いことに加えて、地力の低下や生産者の高齢化に伴い、収量品質が年々低下してきています。

梨産地を活性化させるためには、梨の生産性を高め、後継者が魅力を感じられるものにする必要があります。

こうしたことから、普及センターでは剪定技術の改善や着果管理、土づくり、施肥の改善などによる大玉多収穫栽培技術の実証モデル圃場を十三ヶ所設置しています。

この圃場を拠点として講習会等を開催して、改善技術の普及を図っていきます。生育状況などを見て技術改善の参考にして下さい。

モデル圃設置場所と生産者名

土浦市菅谷	野口 良明
石岡市大砂	戸井田保史
千代田町上佐谷	中根 彰
千代田町二子塚	小倉 克之
玉里村上玉里	大槻 賢一
新治村上坂田	塙 正夫
霞ヶ浦町戸崎	飯村 豊
八郷町山崎	友部 昇英
八郷町山崎	飯村 兵吾

### 水稲

「コシヒカリ」グレードアップ展示圃を設置しました  
茨城県の代表的な米の品種「コシヒカリ」は、良質・良食味であり、市場評価が高いものの、倒伏に弱く、栽培管理が難しい品種です。

そこで、今年から三年間、この「コシヒカリ」を対象に、倒伏させず、粒が大きく、食べておいしい米づくりを実践していくこととなりました。実践拠点は以下の十四箇所の展示圃です。

土浦市	大岩田・飯田
霞ヶ浦町	深谷・田伏
新治村	下坂田・大畑
石岡市	田島・井関
玉里村	高崎・栗又四ヶ
八郷町	金指・中戸
千代田町	高倉・下稻吉

この展示圃では、中干しによる適正な茎数管理(㎡当り四五〇本)、適期の追肥(出穂前二〇〜一五日)等を実践していきます。設置場所は、大きな看板が目印ですので、ぜひ一度お立ち寄りください。

土づくりを行いましょ

# 営農

## 水稲



### 「千粒重の大きい、高品質」 コシヒカリ生産を目指す

米の価格が低迷するなか、整粒歩合の高い、張りのある、良い米が求められるようになってきた。そして、これらに因應するよう、産地では工夫や研究を重ね、安心して食べられる米を作ったり、一・九ミリの網目で選別調整したり、収量性ではなく高品質を目指した米づくりを推進したり、売れる米づくりに本腰を入れ始めている。

整粒歩合が高く、張りがあり、千粒重の大きな米を作るには基本的に徹した稲づくりが大切である。まず、田植えて、植え付け本数は一株当たり五〜七本とする。植付の深さは、三cm程度の浅植えとする。これがスタートである。

次に適正な茎数管理が重要となる。いつまでも中干しをしないで、稲を作りすぎたり、茎数を取りすぎてはいけない。

一株当たり二〇〜二二本の茎が確保・確認できたら直ちに中干しを始めるようにする。平年であれば六月一〇日〜一五日頃が中干し適期となる。茎数が多く、総穂数が多すぎる

と、粒が小さくなってしまふ。茎数が少なく、総穂数が少なすぎる。六月下旬の最高分けつ期の茎数を、一株当たり三〇本程度に管理できれば良好である。

次に、適期適量穂肥が重要となる。決して肥料不足は良くないが、肥料が過ぎ過ぎると倒伏してしまふ。倒伏させてしまつては、すべしておしまいである。

倒伏させず、食味をおとさず、粒張りを良くするためには、出穂期の二〇日前頃が穂肥適期となる。平年では、八月二日〜五日頃がコシヒカリの出穂期となるので、七月一日〜二日頃が穂肥適期となる。

適期穂肥ができて、適正な穂肥量でないと、倒伏や食味を低下させてしまうことになる。チッソ成分で一・七kg以内、N K化成で一〇a当り一〇kg程度までが、適正な穂肥量である。

## 梨



梨の高品質・多収穫栽培に土浦普及センター管内の梨農家が丸と丸と丸と取り組んで早三年目になる。昨年は七カ市町村にモデル展示圃を一三ヶ所設置した。

設置の目的は、目標収量幸水三トン・豊水四トン・大玉率八〇%以上を得るための予備枝の立て方

## 町から村から

### 「土浦市」

JA土浦パソコン研究会  
当研究会は会員八十名で、毎週水曜日にJA土浦を会場に、ワープロ、農業日誌、インターネットなどの学習会を行っている。

パソコンは一般家庭にも普及しており、新たにパソコン操作を習得しようとする人も多い。研究会を結成して今年が十年目となり、学習用パソコンが古くなって、更新しなくてはならない悩みもあるが、全国農業情報ネットワーク大会に参加したりと、会員一同張りきっている。

### 「霞ヶ浦町」

県農村青少年プロジェクト実績発表会  
最優秀賞受賞

去る二月九日に行われた農村青少年プロジェクト実績発表会において、当土浦地域代表で霞ヶ浦町4日クラブの塚本和美氏(22)が、県知事賞(最優秀賞)並びに担手育成基金理事長賞(特別賞)に輝いた。発表内容は、「省力・低コスト・品質向上による花き経営の改善」で、就農してから四年間の取り組みについて発表を行った。なお、今回の受賞により、八月に三重県で行われる全国大会(農業青年交換大会)の出場が決定している。成果を期待したい。

### 「玉里村」

ふれあい産直施設で活性化へ  
玉里村では、地域活性化を図るために、地域で生産される野菜等を加工する施設が、この程完成した。ひたち野農業協同組合田余支店敷地内に建設され、同農協朝市部会が中心となって利用することになっている。

加工販売品としては、漬物・赤飯・モチ等が予定されており、これからの地域の盛り上がりが期待され、同農協朝市部会員たちが、夢と希望をふくらませている。

### 「千代田町」

繭クラフト生産販売に着手  
千代田町養蚕婦人部(田崎秀子会長)では、この四月より、繭クラフト生産販売に着手した。繭クラフト制作教室やコンテストを通じて、会員各自が技術向上を目指し、仲間意識を深めながらレベルアップを図っている。その活動はNHKテレビや各種新聞にも取り上げられ、繭クラフトへの関心の高さがうかがわれる。各種イベントにも積極的に参加し、会員一同、より付加価値の高い作品づくりに燃えている。

表1 梨幼果期の果実の大きさと収穫期の果実の大きさの関係(幸水)

満開後 日数	取 穫 果 実					
	3L	2L	L	M	S	2S
91.2	87.2	84.0	81.5	79.5	77.7	
50	33.7	32.1	30.8	29.8	29.0	28.2
60	38.4	36.5	35.1	34.0	33.1	32.2
70	44.6	42.3	40.4	39.0	37.9	36.8
80	53.9	50.9	48.5	46.6	45.1	43.7
90	64.8	61.4	58.7	56.5	54.8	53.3
100	75.4	72.1	69.5	67.5	65.9	64.4
110	84.1	81.0	78.5	76.6	75.0	73.6

注) 幸水、横径(mm)



## レンコン

### 「レンコンと気象」

レンコンは温暖性の気候に適する野菜で、一五度以上が六ヶ月間

が**がんばっています**



パンプキンググループ  
代表 長谷川 静子

を行い、光を取入れる工夫をする。  
②摘果表・摘果ノギス・スケールを利用して、S玉(ジャミ玉)を除いてほしい。

確保できる気象条件を要すると言われている。また、雹や風といった気象災害の影響を受けやすく、管内でも平成八年七月の降雹害、昨年九月の台風五号による強風害など生育不良の原因となったことは記憶に新しいところである。

### 「今年の生育状況」

昨年九月の台風五号により、管内の多くのレンコンは茎葉の損傷を受けた。早生種ではほとんど生育を完了させていたため、収穫量の変動は少なかったが、中晩生種では一ヶ月以上早く生育が停止したため、二〜三割の収量減となつてしまった。

さて、今年の定植からの生育状況はどうだろう。四〜五月の気温は比較的高く、レンコンの生育にとっては良好であり、今のところ順調な生育となっている。

### 「これからの管理」

天候に左右されやすいレンコン

パンプキンハウスのハーブクッキーをご存知ですか。今年から、JA八郷園部農畜産物直売所で販売しています。このクッキーは、八郷町宿山崎の女性グループ「パンプキン」が自己資金で建てた、菓子工房「パンプキンハウス」で手作りしているものです。

パンプキンググループは、平成元年に結成し、平成四年から、ハーブの

側枝の配置などの技術を実証・展示することである。

ところが昨年は予期せぬ天候不順で、世間全体に果実類は不作だった。梨も例外ではなく収量・品質とも前年比九〇%の不作だった。モデル圃での成績もふるわなかった。予備枝の本数を平米三本以上立てた所や側枝の本数が多く、着果数も一萬果以上と多すぎた園では、早期落葉がおこり、玉伸びにバラツキが生じた。目標収量三トンは達成されなかった。

そこで今年は、新たに生じたこれらの問題に対処するために、技術目標に多少の修正を加えてモデル圃設置に望んだ。

①必要な予備枝本数は、樹冠面積一平米当り三〜二本に修正。しかも太さ八ミリ以下の育成予備枝、八〜一二ミリの今までどおりの予備枝、一二ミリ以上の太い予備枝(短果枝を着生させるための立てっぱなし予備枝を含む)を均等数配置する。

②目標着果個数八千果

③側枝の間隔は三〇〜三五センチ。冷夏・日照不足の年でも果叢葉に日が当り、次年度の花芽が充実して安定生産できるよう配慮した。

さて、六月以降の管理であるが、園内の混み具合、明るさに注意してほしい。①混んで暗い園は、新梢の基部二節を残したピンチ、果叢葉にかぶさった予備枝の引き、不定芽からの枝かき、郡芽処理等

栽培であるが、基本的栽培管理を怠ると思わぬ問題に発展しかねないので油断は禁物である。主な点検事項を例示したので確認されたい。

### ①病害虫

昨年多く見られ、余り対策がとられていない褐斑病対策。昨年発生していればその圃場は要注意。ハウス栽培の方が早い時期に発生するので、観察を怠らないこと。

### ②水管理

畦畔からの漏水はないか。地温確保のため浅水は効果的だが、腐敗病対策として深水管理を行なう必要もある。いずれにせよ、畦畔からの流水、漏水対策をとる。

### ③浮き草

腐敗病対策と掘取様式の変化により、常時湛水状態の圃場がほとんどである。地温確保のためにも早い時期での防除がポイント。

共同栽培を始めました。栽培技術や、利用方法などを学びながら、その効用を知り、ハーブティーや、クッキー等を作り、楽しむと同時に、地元「ギター館」で来客者との交流にも活かして来ました。菓子工房を拠点に、こだわりのお菓子作りに燃えるグループです。